

点検評価ポートフォリオ

山陽小野田市立山口東京理科大学

2023年5月

はじめに

大学設置の背景

昭和 58 (1983) 年、我が国では、先端技術産業を中核とした産・学・住が一体となった街づくりを促進し、研究開発施設等各種産業基盤の事業整備等の推進を通じて地域経済の振興と向上を目指す「高度技術工業集積地域開発促進法 (テクノポリス法)」が制定された。通商産業省の産業政策では、中央集権的政策から地域企業主導が全面に打ち出され、ハイテク産業と大学が連携した地域発展リサーチパークとして、産業、学術及び居住空間が有機的に結合された新しいまちづくりを行うテクノポリス計画として地域ハイテク戦略に大きな期待が掛けられた。地方自治体の関心は非常に高まりを見せ、国が定めた指針に沿った開発計画を作成するために、各自治体は理工学系大学の設置と誘致に積極的に取り組むことになった。

山口県、小野田市 (現山陽小野田市)、宇部市の各当局をはじめ、各種関係機関は「地元の教育環境の向上」と「地域産業の振興発展」を願い、学校法人東京理科大学に対し、先端技術産業関連の中堅技術者の養成を目的とする工学系短期大学の誘致を行った。

昭和 62 (1987) 年 4 月、設置経費の寄付と用地の無償譲渡及び無償貸与による公私協力方式により、学校法人東京理科大学のもとに東京理科大学山口短期大学が設置された。その後、IT 革命による科学技術の急速な進歩発展にともなう高度な専門知識・能力をもつ技術者の人材養成が求められるようになり、平成 7 (1995) 年 4 月に、同短大を発展的に改組し、4 年制大学として山口東京理科大学が設立された。平成 28 年 3 月までに、短期大学 1,896 名、4 年制大学 2,269 名、大学院修士課程 204 名、博士後期課程 8 名の人材を社会に送り出した。

平成 28 (2016) 年 4 月、地方都市における落ち

着いた教育環境のもと、東京理科大学との姉妹校関係を維持強化しつつ、理工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成に貢献することを目的に、大学の設置者を学校法人東京理科大学から公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学に変更し、山陽小野田市立山口東京理科大学 (以下「本学」という。) として公立大学に生まれ変わった。

建学の精神

本学は、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という建学の精神に基づき、工学の基礎及び応用を教育研究するとともに、幅広い教養教育を行い、人間性及び創造性豊かな人材を育成して、文化の進展及び産業の興隆に寄与するものである。

使命・目的

本学の目的は、山陽小野田市立山口東京理科大学学則第 1 条において、「山陽小野田市立山口東京理科大学は、地方都市における恵まれた教育環境のもと、理工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する人材の育成に貢献することを目的とする。」として定めている。本学大学院の目的は、山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則第 5 条において、「本学大学院修士課程は、広い視野に立って学識を養い、研究及び応用の面で、理学と工学の調和の取れた能力を育み、常に基本に立ち戻って新しい課題に取り組む態度を培うことを目的とする。」とし、同条第 2 項において「本学大学院博士後期課程は、修士課程で育まれた能力、幅広い知識を最先端の研究分野に活かし、これを深く窮め、社会の要請に弾力的に応えるとともに地域社会に貢献する能力を培うことを目的とする。」として定めている。

目次

大学の概要	2
大学の目的	5
I 「基準1 法令適合性の保証」に関する点検評価資料	
イ 教育研究上の基本となる組織に関する事(①大学)	8
(②大学院)	10
ロ 教員組織に関する事(①大学)	12
(②大学院)	14
ハ 教育課程に関する事(①大学)	16
(②大学院)	18
ニ 施設及び設備に関する事	20
ホ 事務組織に関する事	22
ヘ 卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針に関する事	24
ト 教育研究活動等の状況に係る情報の公表に関する事	27
チ 教育研究活動等の改善を継続的に行う仕組みに関する事	29
リ 財務に関する事	31
ヌ イからリまでに掲げるもののほか、教育研究活動等に関する事	33
II 「基準2 教育研究の水準の向上」に関する点検評価資料	36
III 「基準3 特色ある教育研究の進展」に関する点検評価資料	44
認証評価共通基礎データ	55

大学の概要

(1) 大学名

山陽小野田市立山口東京理科大学

(2) 所在地

山口県山陽小野田市大学通一丁目1番1号

(3) 学部等の構成

学部：工学部、薬学部

研究科：工学研究科

その他の組織：共通教育センター

(4) 学生数及び教職員数（令和5年5月1日）

学生数：学部1,636名、大学院51名

教員数：114名（技能員2名含む）

職員数：50名

(5) 理念と特徴

薬工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成を図るため、学びを展開している。

a) 確かな基礎学力

技術の世界の進歩は速く、産業界では最先端技術のみに精通することではなく、技術の進歩に素早く対応できる確実な基礎学力が求められている。本学では、体系的な教育により、変化の早い技術の進歩に対応できる「確かな基礎学力」を身につけ、技術革新をリードできる、柔軟性豊かな人材を育成する。

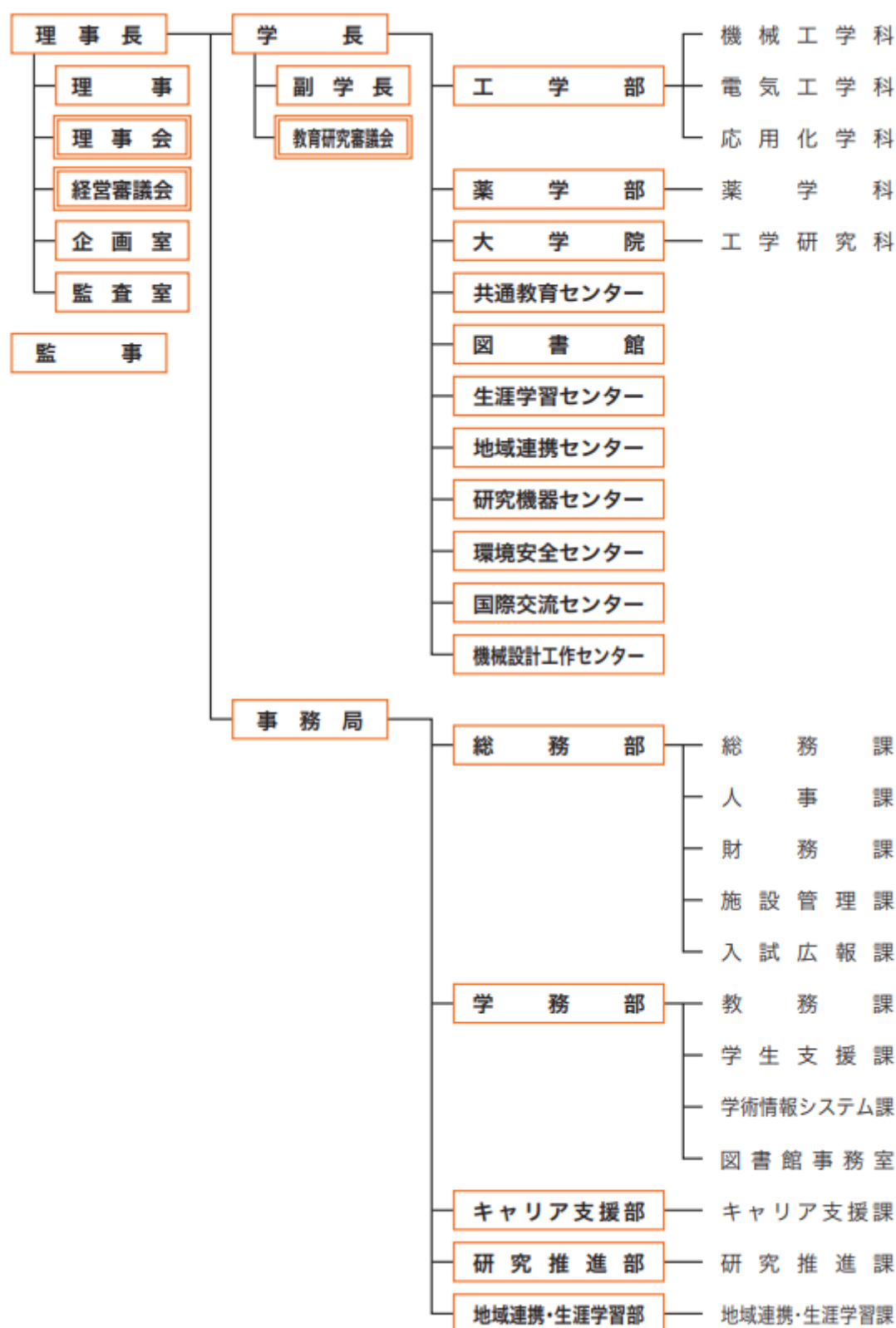
b) 高度な専門知識

地域産業界の中核で活躍する人材（キーパーソン）になるには、学問の本質に迫る深い専門知識を有し、応用を創造できる力が必要である。本学では、高度な専門知識と応用技術、研究方法を習得し、事象の本質的な理解を深めるとともに、応用を創造できる能力と、課題を発見し解決できる能力を身につけた、独創性豊かな人材を育成する。

c) 豊かな人間形成

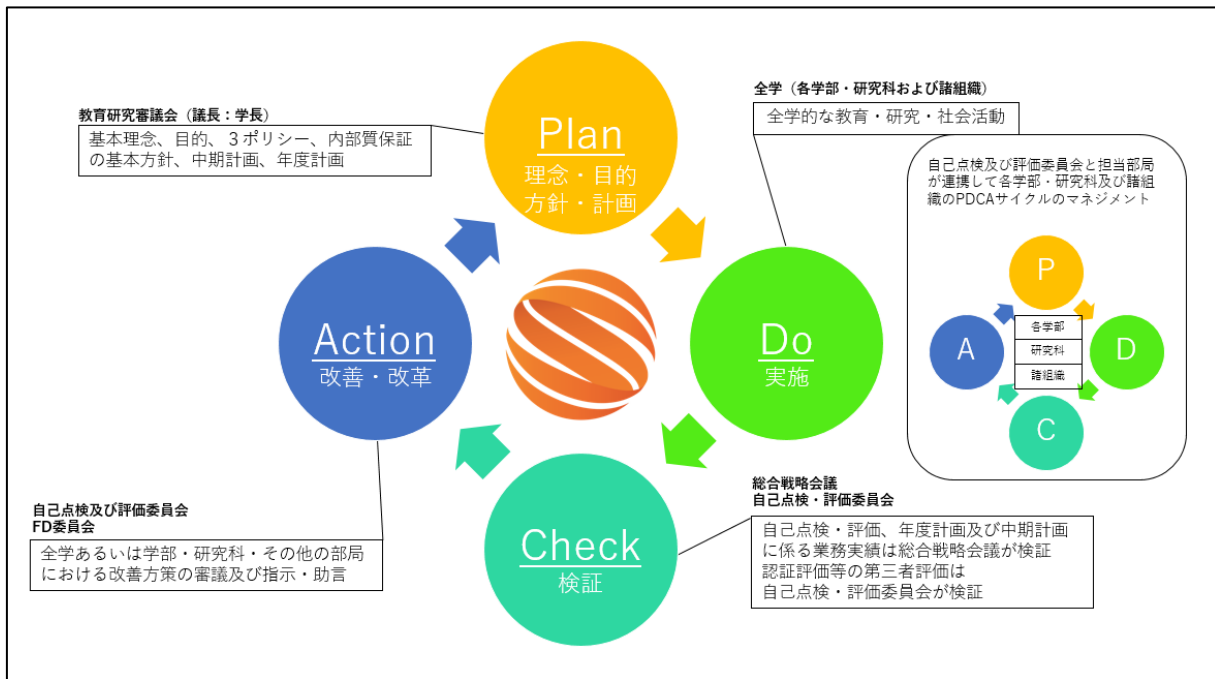
リーダーとして活躍するには、世界の動きや文化を理解できる深い教養と学際領域の幅広い知識が必要である。本学では、国際感覚、社会認識、経済感覚、倫理や責任感、自然科学に対する教養を育み、物事に対する自分の考えや視点を持ち、口頭・文章で表現できる能力や国際的に通用する英語力の基礎を身につけた、人間性豊かな人材を育成する。

(6) 大学組織図 (令和4年5月1日)



教育研究上の基本となる組織として、工学部（機械工学科、電気工学科、応用化学科）、薬学部（薬学科）、工学研究科工学専攻（修士課程、博士後期課程）の2学部4学科、1研究科1専攻を設置している。

(7) 内部質保証体制図



全学的な内部質保証は、学長を議長とし、学部長、研究科長、学生部長、共通教育センター長、地域連携センター長、図書館長、事務局長、事務部長で構成される「自己点検・評価委員会」が主体となり、上記の枠組みを基軸に推進している。自己点検・評価委員会を教学面から補完する組織としてFD委員会を設置しており、FD委員会では「教授方法、教育内容・手段・環境等の点検及び改善に関すること」、「授業評価の実施に係る企画・運営に関すること」及び「教育課程の点検及び改善並びに調整に関すること」等の審議及び指示・助言を行っている。

1) Plan (方針・計画)

教育研究に関する重要事項を審議する全学的な機関として、学長を議長とした「教育研究審議会」を設置している。本審議会の構成員は、その半数を本法人の役員及び職員でない外部の者により構成されている。本審議会では、「中期計画及び年度計画に関する事項のうち、教育研究に関するもの」、「教育課程の編成に係る方針に関する事項」など教育・研究に関する事項を協議している。

2) Do (実施)

年度計画及び方針等に沿って、学部・研究科及び各部局は教育研究活動等を実施する。

3) Check (検証)

年度計画及び教育研究活動等の実施状況についての検証は「総合戦略会議」が行い、認証評価等の第三者評価の検証は「自己点検・評価委員会」が行う。

4) Action (改善・改革)

「総合戦略会議」及び「自己点検・評価委員会」は全学の自己点検・評価結果の適切性、有効性の評価及び改善すべき事項に関して審議する。学長は、この審議結果に基づき全学に対し行動計画を示し、各部局における改善点や目標を明確にしている。

大学の目的

(1) 学則

・山陽小野田市立山口東京理科大学学則

(目的)

第1条 山陽小野田市立山口東京理科大学は、地方都市における落ち着いた教育環境のもと、薬工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成に貢献することを目的とする。

・山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則

(目的)

第5条 本学大学院修士課程は、広い視野に立って学識を養い、研究及び応用の面で、理学と工学の調和の取れた能力を育み、常に基本に立ち戻って新しい課題に取り組む態度を培うことを目的とする。

2 本学大学院博士後期課程は、修士課程で育まれた能力、幅広い知識を最先端の研究分野に活かし、これを深く窮め、社会の要請に弾力的に応えるとともに地域社会に貢献する能力を培うことを目的とする。

I 「基準 1 法令適合性の保証」に関する点検評価資料

イ 教育研究上の基本となる組織に関すること (①大学)

(1) 自己点検・評価の実施状況

1) 目的

大学の目的は、「理学の普及をもって国運発展の基礎とする」という建学の精神を基に、学則第1条において、「山陽小野田市立山口東京理科大学は、地方都市における恵まれた教育環境のもと、薬工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する人材の育成に貢献することを目的とする。」と定めている。

大学の目的を実現するために、教育研究上の組織として、工学部（機械工学科、電気工学、応用化学科）、薬学部（薬学科）の2学部4学科を設置している。

学部における人材の養成に関する目標は、学則第4条において、「工学部は、機械工学科、電気工学科及び応用化学科における教育研究を通じて、「工学」と「理学」の融合を目指した独創的かつ先進的な取り組みを行い、社会に役立つ工学を開拓できる専門及び応用知識の探求、先進技術及び工学に应用できる実験技術の教授を通じて、人間や自然・環境を意識して問題を解決できる能力、自己表現力や情報解析能力を高め、世界的視野で物事を思考できる人間性豊かな科学技術者を育成する。」と定め、また「薬学部は、「薬学をとおして人の健康を守る」という高い志と倫理観・研究心を持ち、薬剤師資格を得た優れた薬学人を養成し、もって山口県を中心とする地域に貢献することを目的とする。」と定めている。

工学部の学士課程を修了した者には「学士（工学）」を、薬学部の学士課程を修了した者には「学士（薬学）」の学位を授与する。このように教育研究組織は、「薬工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究する」という大学の目的と整合したものとなっている。

2) 収容定員

学部の入学者数は、入学定員320人に対し、令和4年度の入学者数は336人（入学定員充足率1.05倍）であり、平成27年文部科学省告示第154号にて定められた入学定員の超過率1.10倍未満（学部規模100人以上300人未満の基準）を遵守している。

また、令和4年度における収容定員充足状況は、収容定員1,280人に対し、学生数は1,340人（収容定員充足率104.7倍）であり、教育にふさわしい環境の確保のため、在学する学生の数を収容定員に基づき適正に管理している。

〔参考〕学部の入学定員、入学者数（令和4年度）、収容定員、学生数（令和4年5月1日現在）

学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
工学部	機械工学科	60	67	240	260
	電気工学科	60	64	240	260
	応用化学科	80	83	320	340
薬学部	薬学科	120	122	600	597
合計		320	336	1,400	1,457

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持に努めている。
改善を要する点	本学が山口県内で唯一となる公立薬工系大学として、地域の社会・経済・文化への貢献を果たすために、地域が必要とする教育研究組織の再編を含めた改善に取り組む。

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料（リンク）
	教育基本法	
①	第七条（大学） 大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。 2 大学については、自主性、自律性その他の大学における教育及び研究の特性が尊重されなければならない。	○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学定款 第1条（目的） ○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第1条（目的） ○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・建学の精神
	学校教育法	
②	第八十三条 大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。 ② 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。	○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学定款 第1条（目的） ○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第1条（目的）
	大学設置基準	
③	第二条（教育研究上の目的） 大学は、学部、学科又は課程ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則等に定めるものとする。	○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第4条（人材育成に関する目的） ○認証評価共通基礎データ
④	第三条（学部） 学部は、専攻により教育研究の必要に応じ組織されるものであつて、教育研究上適当な規模内容を有し、教員組織、教員数その他が学部として適当であると認められるものとする。	○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第4条（学部及び学科）
⑤	第四条（学科） 学部には、専攻により学科を設ける。 2 前項の学科は、それぞれの専攻分野を教育研究するに必要な組織を備えたものとする。	（同上）
⑥	第五条（課程） 学部の教育上の目的を達成するため有益かつ適切であると認められる場合には、学科に代えて学生の履修上の区分に応じて組織される課程を設けることができる。	○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第4条 ○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・教育組織・教員の数
⑦	第十八条（収容定員） 収容定員は、学科又は課程を単位とし、学部ごとに学則で定めるものとする。この場合において、第二十六条の規定による昼夜開講制を実施するときはこれに係る収容定員を、第五十七条の規定により外国に学部、学科その他の組織を設けるときはこれに係る収容定員を、編入学定員を設けるときは入学定員及び編入学定員を、それぞれ明示するものとする。 2 収容定員は、教員組織、校地、校舎等の施設、設備その他の教育上の諸条件を総合的に考慮して定めるものとする。 3 大学は、教育にふさわしい環境の確保のため、在学する学生の数を収容定員に基づき適正に管理するものとする。 ※ 入学定員の超過率については、平成十五年文部科学省告示第四十五号、平成二十七年文部科学省告示第五十四号を参考とすること	○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第5条（収容定員） ○認証評価共通基礎データ
⑧	第四十条の四（大学等の名称） 大学、学部及び学科（以下「大学等」という。）の名称は、大学等として適当であるとともに、当該大学等の教育研究上の目的にふさわしいものとする。	○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学定款 第3条（大学の設置） ○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第4条第2項（学部及び学科）

イ 教育研究上の基本となる組織に関すること（②大学院）

（１）自己点検・評価の実施状況

1) 目的

大学院では、教育研究上の基本となる組織として、工学研究科工学専攻に修士課程、博士後期課程を設置している。

修士課程の目的は、大学院学則第 5 条第 1 項において「本学大学院修士課程は、広い視野に立って学識を養い、研究及び応用の面で、理学と工学の調和の取れた能力を育み、常に基本に立ち戻って新しい課題に取り組む態度を培うことを目的とする。」と定めている。

博士後期課程の目的は、同条第 2 項において「本学大学院博士後期課程は、修士課程で育まれた能力、幅広い知識を最先端の研究分野に活かし、これを深く窮め、社会の要請に弾力的に応えるとともに地域社会に貢献する能力を培うことを目的とする」と定めている。

修士課程における人材の養成に関する目的は、大学院学則第 6 条第 2 項において、「修士課程は、科学技術が工学と理学の各分野が相互に関連し合って進歩を遂げている現状を踏まえて、理工学分野を横断的な視点で捉えた研究・教育を行い、多様な専門性を要求される業務に必要な研究能力及び学識を備えるとともに、技術者及び研究者に要求される倫理及び常識を修得し、それぞれの分野で個性及び創造性を発揮できる人材を育成し、科学技術の進展に寄与することを目的とする。」と定めている。

博士後期課程における人材の養成に関する目的は、「博士後期課程は、高度に専門的な業務に従事するのに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を備え、研究者として自立し世界的水準で活躍できる人材を育成し、特に材料分野における科学技術の進展に寄与することを目的とする。」と定めている。

修士課程を修了した者には、「修士（理学）」又は「修士（工学）」の学位を、博士後期課程を修了した者には、「博士（理学）」又は「博士（工学）」の学位を授与する。

2) 収容定員

修士課程の入学者数は、入学定員 15 人に対し、令和 4 年度の入学者数 17 人（入学定員充足率 113.3%）、収容定員充足状況は、収容定員 30 人に対し、学生数 39 人（収容定員充足率 120.0%）である。

博士後期課程の入学者数は、入学定員 3 人に対し、令和 4 年度の入学者数 1 人（入学定員充足率 33.3%）、収容定員充足状況は、収容定員 9 人に対し、学生数 3 人（収容定員充足率 33.3%）である。

〔参考〕大学院の入学定員、入学者数（令和 4 年度）、収容定員、学生数（令和 4 年 5 月 1 日現在）

研究科	課程	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
工学研究科	修士課程	15	17	30	39
	博士後期課程	3	1	9	3
合 計		18	18	39	42

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	幅広い知識を最先端の研究分野に活かし、これを深く窮め、社会の要請に弾力的に応えるとともに地域社会に貢献する能力を持った人材の育成。
改善を要する点	博士後期課程の収容定員を充足するとともに、博士後期課程では材料分野以外の領域の発展に貢献できるよう、教員の研究能力の向上を図る。

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
	学校教育法	
①	<p>第九十九条 大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。 ② 大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とするものは、専門職大学院とする。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第5条(目的)
	大学院設置基準	
②	<p>第一条の二(教育研究上の目的) 大学院は、研究科又は専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則等に定めるものとする。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第6条第2項(人材養成に関する目的)
③	<p>第二条(大学院の課程) 大学院における課程は、修士課程、博士課程及び専門職学位課程(学校教育法第九十九条第二項の専門職大学院の課程をいう。以下同じ。)とする。 2 大学院には、修士課程、博士課程及び専門職学位課程のうち二以上を併せ置き、又はそのいずれかを置くものとする。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第3条(課程) 第4条(修業年限)
④	<p>第三条(修士課程) 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。 2 修士課程の標準修業年限は、二年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、二年を超えるものとする。ことができる。 3 前項の規定にかかわらず、修士課程においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であつて、教育研究上の必要があり、かつ、昼間と併せて夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を一年以上二年未満の期間とすることができる。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第4条(修業年限)
⑤	<p>第四条(博士課程) 博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。 2 博士課程の標準修業年限は、五年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、五年を超えるものとする。ことができる。 3 博士課程は、これを前期二年及び後期三年の課程に区分し、又はこの区分を設けないものとする。ただし、博士課程を前期及び後期の課程に区分する場合において、教育研究上の必要があると認められるときは、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、前期の課程については二年を、後期の課程については三年を超えるものとする。ことができる。 4 前期二年及び後期三年の課程に区分する博士課程においては、その前期二年の課程は、これを修士課程として取り扱うものとする。前項ただし書の規定により二年を超えるものとした前期の課程についても、同様とする。 5 第二項及び第三項の規定にかかわらず、教育研究上必要がある場合においては、第三項に規定する後期三年の課程のみの博士課程を置くことができる。この場合において、当該課程の標準修業年限は、三年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、三年を超えるものとする。ことができる。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第4条(修業年限)
⑥	<p>第五条(研究科) 研究科は、専門分野に応じて、教育研究上の目的から組織されるものであつて、専攻の種類及び教、教員数その他が大学院の基本となる組織として適当な規模内容を有すると認められるものとする。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第6条第1項(研究科)
⑦	<p>第六条(専攻) 研究科には、それぞれの専攻分野の教育研究を行うため、数個の専攻を置くことを常例とする。ただし、教育研究上適当と認められる場合には、一個の専攻のみを置くことができる。 2 前期及び後期の課程に区分する博士課程においては、教育研究上適当と認められる場合には、前期の課程と後期の課程で異なる専攻を置くことができるものとする。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第6条第1項(研究科)
⑧	<p>第十条(収容定員) 収容定員は、教員組織及び施設設備その他の教育研究上の諸条件を総合的に考慮し、課程の区分に応じ専攻を単位として研究科ごとに定めるものとする。 2 前項の場合において、第四十五条の規定により外国に研究科、専攻その他の組織を設けるときは、これに係る収容定員を明示するものとする。 3 大学院は、教育研究にふさわしい環境の確保のため、在学する学生の数を収容定員に基づき適正に管理するものとする。</p> <p>※ 入学定員の超過率については、平成十五年文部科学省告示第四十五号、平成二十七年文部科学省告示第百五十四号を参考とすること</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第7条(収容定員) ○認証評価基礎データ
⑨	<p>第二十二條の四(研究科等の名称) 研究科及び専攻(以下「研究科等」という。)の名称は、研究科等として適当であるとともに、当該研究科等の教育研究上の目的にふさわしいものとする。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第6条第1項(研究科) 第6条第2項(人材養成に関する目的)

□ 教員組織に関すること（①大学）

（1）自己点検・評価の実施状況

1) 教授会

学則第40条において、学部の教育研究に関する審議を行うため、教授会及び教授総会を置いている。教授会は、専任の教授をもって組織し、教授総会は専任の教授、准教授及び講師をもって組織する。教授総会は、原則として月次に開催している。

教授会及び教授総会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、審議し、意見を述べるものとしている

- (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会及び教授総会の意見が必要なものとして、学長が別に定める事項

2) 教員組織

教育研究上の組織として、工学部（機械工学科、電気工学科、応用化学科）、薬学部（薬学科）、両学部の教養教育を担う共通教育センターを設置している。

専任教員の年齢構成は、40歳以下が25.7%、41歳～50歳が30.3%、51歳～60歳が26.6%、61歳以上が17.4%とバランスよく配置されている。また、教授が42.2%、准教授が19.3%、講師が21.1%、助教が15.6%、助手が1.8%である。兼任教員は29人であり選択科目を担当している（共に教職課程を含む）。専任教員が担当する科目数の全科目数に対する比率（専兼比率）は約91.3%である。

3) 授業科目の担当

教育上主要と認める授業科目については専任の教授又は准教授が担当すると大学の設置基準に従い、基本的に必修科目については専任の教授又は准教授を配置している。演習、実験、実習を伴う授業科目については、助教、助手及び大学院生によるティーチングアシスタントが補助をしている。

教員の採用・昇任については、「公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学における専任教育職員の採用及び昇任に関する規程」で実施方法、選考方法、採用・昇任の手続等を明記しており、これに基づいて選考を行っている。

4) 専任教員数

大学における専任教員の数は、大学設置基準の別表第1により学部の種類及び規模に応じ定める専任教員数と、別表第2により大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数を合計した数を充分満たしている。また、薬学部では、大学設置基準別表第1イ備考10の規定に基づき、薬剤師としての実務の経験を有するものを配置している。

なお、工学部及び薬学部における実務家教員による授業科目の一覧と授業の概要を大学ホームページにて公開している。

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	教養教育実施のための体制整備。
改善を要する点	持続的な教員の資質・能力の向上と適切な評価をめざして、FD委員会をはじめとする各組織委員会の取り組みの改善に努める。

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
	学校教育法	
①	<p>第九十三条 大学に、教授会を置く。</p> <p>② 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。 一 学生の入学、卒業及び課程の修了 二 学位の授与 三 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの</p> <p>③ 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。</p> <p>④ 教授会の組織には、准教授その他の職員を加えることができる。</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第40条（教授会及び教授総会） 第41条（教授会及び教授総会の審議事項）</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学教授会及び教授総会規程 第3条（審議事項）</p>
	大学設置基準	
②	<p>第七条（教員組織） 大学は、その教育研究上の目的を達成するため、教育研究組織の規模並びに授与する学位の種類及び分野に応じ、必要な教員を置くものとする。</p> <p>2 大学は、教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるように教員組織を編制するものとする。</p> <p>3 大学は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。</p> <p>4 大学は、二以上の校地において教育を行う場合においては、それぞれの校地ごとに必要な教員を置くものとする。なお、それぞれの校地には、当該校地における教育に支障のないよう、原則として専任の教授又は准教授を少なくとも一人以上置くものとする。ただし、その校地が隣接している場合は、この限りでない。</p> <p>※ 教員の職務・資格等については、学校教育法第九十二条、大学設置基準第十四条・第十五条・第十六条・第十六条の二・第十七条を参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学教授会及び教授総会規程 第5条の6（教育職員）</p> <p>○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学業務規程 第7条（職務）</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学WEBページ ・教育組織・教員の数 ・教員紹介</p> <p>○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学における専任教育職員の採用及び昇任に関する規程</p> <p>○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学教育職員の資格基準に関する規程</p>
③	<p>第十条（授業科目の担当） 大学は、教育上主要と認める授業科目（以下「主要授業科目」という。）については原則として専任の教授又は准教授に、主要授業科目以外の授業科目についてはなるべく専任の教授、准教授、講師又は助教（第十三条、第四十六条第一項及び第五十五条において「教授等」という。）に担当させるものとする。</p> <p>2 大学は、演習、実験、実習又は実技を伴う授業科目については、なるべく助手に補助させるものとする。</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第6条（教育課程）</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学教務委員会規程 第2条（審議事項）</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学シラバス</p>
④	<p>第十二条（専任教員） 教員は、一の大学に限り、専任教員となるものとする。</p> <p>2 専任教員は、専ら前項の大学における教育研究に従事するものとする。</p> <p>3 前項の規定にかかわらず、大学は、教育研究上特に必要があり、かつ、当該大学における教育研究の遂行に支障がないと認められる場合には、当該大学における教育研究以外の業務に従事する者を、当該大学の専任教員とすることができる。</p>	<p>○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学就業規則 第4条（職務専念義務）</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学教育職員の服務に関する内規 第3条（学外兼職の取扱い）</p> <p>○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学クロスアポイントメント制度に関する規程</p>
⑤	<p>第十三条（専任教員数） 大学における専任教員の数は、別表第一により当該大学に置く学部の種類及び規模に応じ定める教授等の数（共同学科を置く学部にあつては、当該学部における共同学科以外の学科を一の学部とみなして同表を適用して得られる教授等の数と第四十六条の規定により得られる当該共同学科に係る専任教員の数を合計した数）と別表第二により大学全体の収容定員に応じ定める教授等の数を合計した数以上とする。</p> <p>※ 専任教員の数については、大学設置基準別表第一・別表第二を参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学WEBページ ・教育組織・教員の数</p> <p>○認証評価共通基礎データ</p>

□ 教員組織に関すること（②大学院）

（1）自己点検・評価の実施状況

1）研究科会議、研究科委員会

大学院学則第36条において、大学院の教育研究に関する審議を行うため、研究科会議及び研究科委員会を置いている。研究科会議は、専任教員の研究指導教員、研究指導補助教員及び授業担当教員をもって組織し、研究科委員会は、研究科長、研究指導教員のうちから研究科長に選ばれた者をもって組織している。

研究科会議における審議事項は、大学院学則第37条において「学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、審議し、意見を述べるものとする。」としている。

(1) 学生の入学、課程の修了に関する事項

(2) 前号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科会議の意見が必要なものとして、学長が定める事項

また、研究科委員会における審議事項は、大学院則第38条において「研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、審議し、意見を述べるものとする。」と定めている。

(1) 学位の授与に関する事項

(2) 前号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見が必要なものとして、学長が定める事項

2）教員組織

大学院では、教員の適切な役割分担及び連携体制を確保し、組織的な教育が行われるように、研究科の授業及び研究指導を担当する「研究指導教員」、研究科の授業及び研究指導の補助を担当する「研究指導補助教員」、研究指導教員又は研究指導補助教員以外の者で各研究科の授業を担当する「授業担当教員」に区分して配置している。

研究指導教員、研究指導補助教員及び授業担当教員の資格基準は「山陽小野田市立山口東京理科大学大学院教員資格基準」に定めている。

大学院では、研究科の基礎となる学部の専任教員27名、大学院の専任教員1名の計28名により構成されている。年齢別の教員構成は、40歳以下が7.1%、41歳～50歳が35.7%、51歳～60歳が約32.2%、61歳以上が25.0%であり、特定の範囲の年齢に著しく偏ることのない構成となっている。兼任教員は2人であり2科目を担当している。専任教員が担当する科目数の全科目数に対する比率（専兼比率）は約95.7%である。

3）組織的な教育

大学院生が自らの専門分野以外の専門分野についても学ぶ機会を与えるために、特論（専門分野の2科目と他分野1科目）、外部講師による特別講義（専門分野1講座と他分野1講座）を選択必修科目として設定している。また、工学研究科の専攻幹事3名を母体となる学部である工学部の3学科に属する教員が担当するなど、組織的な教育に取り組んでいる。

また、大学院生が教員のアシスタントとして、学部学生の実験・実習等の指導にあたり、教える体験を通じて指導能力を高めるティーチングアシスタント制度を導入している。

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	教養教育実施のための体制整備。
改善を要する点	持続的な教員の資質・能力の向上と適切な評価をめざして、FD委員会をはじめとする各組織委員会の取り組みの改善に努める。

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
	大学院設置基準	
①	<p>第八条（教員組織） 大学院には、その教育研究上の目的を達成するため、研究科及び専攻の規模並びに授与する学位の種類及び分野に応じ、必要な教員を置くものとする。</p> <p>2 大学院は、教員の適切な役割分担及び連携体制を確保し、組織的な教育が行われるよう特に留意するものとする。</p> <p>3 大学院の教員は、教育研究上支障を生じない場合には、学部、研究所等の教員等がこれを兼ねることができる。</p> <p>4 第七条の二に規定する研究科の教員は、教育研究上支障を生じない場合には、当該研究科における教育研究を協力して実施する大学の教員がこれを兼ねることができる。</p> <p>5 大学院は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。</p> <p>6 大学院は、二以上の校地において教育を行う場合においては、それぞれの校地ごとに必要な教員を置くものとする。なお、それぞれの校地には、当該校地における教育に支障のないよう、原則として専任の教授又は准教授を少なくとも一人以上置くものとする。ただし、その校地が隣接している場合は、この限りでない。</p> <p>※ 教員の職務・資格等については、学校教育法第九十二条を参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第34条（授業及び研究指導の担当）</p> <p>○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学教育職員の資格基準に関する規程</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院運営規程 第2条（大学院教員の種類）</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学位規則</p>
②	<p>第九条（教員組織） 大学院には、前条第一項に規定する教員のうち次の各号に掲げる資格を有する教員を、専攻ごとに、文部科学大臣が別に定める数置くものとする。</p> <p>一 修士課程を担当する教員にあつては、次の一に該当し、かつ、その担当する専門分野に関し高度の教育研究上の指導能力があると認められる者</p> <p>イ 博士の学位を有し、研究上の業績を有する者</p> <p>ロ 研究上の業績がイの者に準ずると認められる者</p> <p>ハ 芸術、体育等特定の専門分野について高度の技術・技能を有する者</p> <p>ニ 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者</p> <p>二 博士課程を担当する教員にあつては、次の一に該当し、かつ、その担当する専門分野に関し、極めて高度の教育研究上の指導能力があると認められる者</p> <p>イ 博士の学位を有し、研究上の顕著な業績を有する者</p> <p>ロ 研究上の業績がイの者に準ずると認められる者</p> <p>ハ 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者</p> <p>2 博士課程（前期及び後期の課程に区分する博士課程における前期の課程を除く。）を担当する教員は、教育研究上支障を生じない場合には、一個の専攻に限り、修士課程を担当する教員のうち前項第二号の資格を有する者がこれを兼ねることができる。</p> <p>※ 専攻ごとに置くものとする教員の数については、平成十一年文部省告示第七十五号を参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第34条（授業及び研究指導の担当）</p> <p>○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学教育職員の資格基準に関する規程</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院運営規程 第2条（大学院教員の種類）</p> <p>○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学大学院担当教員の資格基準等に関する規程</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院工学研究科教員構成及びその資格基準と審査に係る内規</p>
③	<p>第九条の二（一定規模数以上の入学定員の大学院研究科の教員組織） 研究科の基礎となる学部の学科の数を当該研究科の専攻の数とみなして算出される一個の専攻当たりの入学定員が、専門分野ごとに文部科学大臣が別に定める数（以下「一定規模数」という。）以上の場合には、当該研究科に置かれる前条に規定する教員のうち、一定規模数を超える部分について当該一定規模数ごとに一人を、大学設置基準（昭和三十一年文部省令第二十八号）第十三条に定める専任教員の数に算入できない教員とする。</p> <p>※ 一個の専攻当たりの入学定員の一定の数（「一定規模数」）については、平成十一年文部省告示第七十六号を参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第6条第1項（研究科）</p> <p>○認証評価基礎データ</p>

ハ 教育課程に関すること (①大学)

(1) 自己点検・評価の実施状況

1) 入学者選抜

学則第 22 条において「本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。」と規定し、入学者受入れの方針に沿って、入試方式の募集単位ごとに、入学者に求める能力・適性等についての考え方をまとめた入学者選抜方針を設定し、入学者選抜の方法や出題内容等に反映させるように工夫している。

2) 教育課程の編成方針

工学部では、高度な専門知識と応用技術を修得するとともに、人間や自然・環境を配慮した問題を解決できる能力、自己表現力や情報解析能力を修得できる体系的な教育課程を編成している。段階的な知識の修得を支援するため、一般的素養を深めるための「一般科目」、工学分野における各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、専門家としての能力を養うための「専門科目」の 3 種類の授業科目を体系的に配置している。

薬学部では、高い倫理観と研究心を持ち、薬学をとおして人々の健康を守るという志と自己研鑽力を持った人材を育成する。その基本理念を実現するため、教育課程を編成している。入学時から卒業時まで一貫して薬剤師・薬学人として、豊かな人間性と高い倫理観を持ち、患者本位の視点で人の命と健康な生活を守るという使命感と責任感を醸成している。

教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成している。

3) 単位

卒業に必要な修得単位数の下限は、工学部では 128 単位、薬学部では 205 単位である。履修科目単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成され、この 45 時間の学修は、講義、演習等の授業時間に加えて、学生が自主的に行う準備、学習等の自習時間が含まれている。

4) 授業科目の授業時間

単位制の趣旨を保つために、シラバスには学生が予習や復習など授業外において学習する具体的な内容を提示し、学生が主体的に授業のための事前及び事後学習を展開できるように工夫している。シラバスには、半期科目の場合は、授業 15 回分と定期試験 1 回分を合わせた合計 16 回分の授業計画と、当該授業科目を修得することにより、学生がどの程度の知識・能力を身につけることができるかについても記載している。

5) 履修科目の登録の上限

1 単位 45 時間を確保するために、工学部では学則の規定に基づき履修科目の登録上限を設定し、1 年間の登録単位数の上限を 46 単位として教育課程を編成している。

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	シラバスの記載内容を工夫し、学生が主体的に授業のための事前及び事後学習を展開できるようにしている。
改善を要する点	

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
	大学設置基準	
①	<p>第二条の二（入学者選抜） 入学者の選抜は、公正かつ妥当な方法により、適切な体制を整えて行うものとする。</p> <p>※ 大学に入学できる者の資格については、学校教育法第九十条を参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第22条（入学資格） 第23条（入学者選考）</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学入試委員会規程</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学入学試験実施規程</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・入学者受入れの方針（工学部） ・入学者受入れの方針（薬学部）</p>
②	<p>第十九条（教育課程の編成方針） 大学は、当該大学、学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。</p> <p>2 教育課程の編成に当たっては、大学は、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。</p> <p>※ 学位規程については、学位規則第十三条を参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第6条（教育課程）</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・教育課程の編成方針（工学部） ・教育課程の編成方針（薬学部） ・カリキュラムマップ ・カリキュラムツリー</p>
③	<p>第二十条（教育課程の編成方法） 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。</p>	
④	<p>第二十一条（単位） 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。</p> <p>2 前項の単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。</p> <p>一 講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位とする。</p> <p>二 実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって一単位とすることができる。</p> <p>三 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して大学が定める時間の授業をもって一単位とする。</p> <p>3 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第9条（単位制及び単位の計算方法）</p>
⑤	<p>第二十二条（一年間の授業時間） 一年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、三十五週にわたることを原則とする。</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第19条（学期及び授業期間）</p>
⑥	<p>第二十三条（各授業科目の授業時間） 各授業科目の授業は、十週又は十五週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第9条（単位制及び単位の計算方法）</p>
⑦	<p>第二十五条（授業の方法） 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。</p> <p>2 大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。</p> <p>3 大学は、第一項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。</p> <p>4 大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第一項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第9条（単位制及び単位の計算方法）</p>
⑧	<p>第二十五条の二（成績評価基準等の明示等） 大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。</p> <p>2 大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。</p> <p>※ 卒業の要件については、大学設置基準第三十二条、学校教育法施行規則第四百四十七条を参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第11条（学修成果の評価）</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学 シラバス</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・学修成果の評価基準</p>
⑨	<p>第二十七条（単位の授与） 大学は、一の授業科目を履修した学生に対しては、試験の上単位を与えるものとする。ただし、第二十一条第三項の授業科目については、大学の定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第10条（単位の認定）</p>
⑩	<p>第二十七条の二（履修科目の登録の上限） 大学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が一年間又は一学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるよう努めなければならない。</p> <p>2 大学は、その定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学学則 第11条の2（履修科目の登録の上限）</p>

ハ 教育課程に関すること（②大学院）

（1）自己点検・評価の実施状況

1) 入学者選抜

大学院学則第 21 条において、修士課程の入学試験は、原則として TOEIC のスコア、筆記試験、面接、出身大学の成績等により行い、博士後期課程の入学試験は、TOEIC のスコア、面接、出身大学の成績等のほか、修士論文及び修士課程の成績をも考慮して行うと規定し、入学者受入れの方針に沿って、入学者選抜の方法や出題内容等に反映させるように工夫している。

2) 教育課程の編成方針

工学研究科における教育課程は、機械工学、電気工学、情報科学、物質化学の分野に関連し、伝統的な学問区分や専門区分にとらわれない横断的・学際的な視点をもって理工学分野を展望し、広い視野に立って学識を養えるように編成する。この教育課程において修得した学識を活かして、自ら独創的な研究課題に取り組み、理学と工学の調和した研究及び応用の能力を培うとともに、技術者・研究者が備えるべき問題解決能力と倫理観を醸成する。

<修士課程>

- ① 専門分野ごとに 5 講座の「特論」を設け、3 講座を選択必修とし、自らの研究分野とは異なる分野を含む幅広い理工学の基礎概念を育成する。
- ② 学外の講師による「特別講義」2 講座を選択必修として、最新の研究の進展状況を知るとともに、講師の学術研究に対する姿勢や創造性の育成の方法などの知見を広げる機会を設ける。
- ③ 「国際コミュニケーション」を設け、外国語によるプレゼンテーションの能力を向上させ、研究成果を情報発信する意識を高める。
- ④ 「キャリア指導」及び「技術マネジメント論」を必修科目として置き、研究に対する意識を高め、修士の学位取得者として社会で活躍する心構えを養う。

<博士後期課程>

- ① 修士課程で育まれた研究遂行能力及び幅広い知識を最先端の研究分野に活かして、より深く窮め、社会の要請に弾力的に応えるとともに国際社会に貢献するための能力を培う。
- ② 自らの専門分野について世界的な視野をもち、その進歩進展を常に把握する姿勢を身につけるために、国内外の学会等での発表及び討論の方法、並びに学術論文の執筆に関する指導を行い、研究成果を正確に表現し、発信する能力を涵養する。

3) 修了要件

修士課程の修了要件は、大学院学則第 15 条に明示され、それを満たした者に学位を授与している。修士課程の審査委員会は主査 1 名、副査 2 名で構成し、学位論文の審査によって業績報告会（最終試験）での発表の可否を判定し、可となった者が業績報告会での発表を行い、審査委員会の評価にもとづいて研究科の全教員による判定により可否を判定することで基準を厳正に適用している。

博士後期課程の修了要件は、大学院学則第 15 条の 2 に明示され、それを満たした者に学位を授与している。博士論文の審査委員会は主査 1 名、副査 4 名以上で構成し、副査には必ず学外の審査員を加えることで公正な審査を行っている。博士の学位論文は、学位授与から 1 年以内にリポジトリにおいて公開している。

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	自身の専攻分野以外の専門分野についても学ぶ機会を提供している。
改善を要する点	研究室での課題解決型セミナーを行うことにより、学生の学習意欲の向上を促進する。

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
	大学院設置基準	
①	<p>第一条の三（入学者選抜） 入学者の選抜は、公正かつ妥当な方法により、適切な体制を整えて行うものとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第20条の2（入学資格） 第21条（入学試験） ○山陽小野田市立山口東京理科大学入学試験実施規程 ○山陽小野田市立山口東京理科大学WEBページ ・大学院入学者受入方針
②	<p>第十一条（教育課程の編成方針） 大学院は、当該大学院、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。 2 教育課程の編成に当たっては、大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮しなければならない。</p> <p>※ 学位規程については、学位規則第十三条を参照すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第5条（目的） 第8条（教育方法） ○山陽小野田市立山口東京理科大学WEBページ ・教育課程の編成方針 ・カリキュラムマップ ○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院工学研究科細則
③	<p>第十二条（授業及び研究指導） 大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第8条（教育方法）
④	<p>第十三条（研究指導） 研究指導は、第九条の規定により置かれる教員が行うものとする。 2 大学院は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院又は研究所等において必要な研究指導（共同教育課程を編成する専攻の学生が当該共同教育課程を編成する大学院において受けるもの及び国際連携教育課程を編成する専攻の学生が当該国際連携教育課程を編成する大学院において受けるものを除く。以下この項において同じ。）を受けることを認めることができる。ただし、修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、一年を超えないものとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第8条（教育方法） 第9条（研究指導委託） 第34条（授業及び研究指導の担当）
⑤	<p>第十四条の二（成績評価基準等の明示等） 大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。 2 大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。</p> <p>※ 修士課程及び博士課程の修了要件については、大学院設置基準第十六条・第十七条、学位規則第三条・第四条を参照すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院学則 第14条（授業科目の単位の認定等） 第15条（修士課程の修了要件） 第15条の2（博士課程の修了要件） 第16条（学位論文の審査等） 第17条（最終試験） ○山陽小野田市立山口東京理科大学学位規則 ○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院工学研究科細則 ○山陽小野田市立山口東京理科大学WEBページ ・学修成果に対する評価の方針
⑥	<p>第十五条（大学設置基準の準用） 大学院の各授業科目の単位、授業日数、授業期間、授業を行う学生数、授業の方法及び単位の授与、他の大学院における授業科目の履修等、入学前の既修得単位等の認定、長期にわたる教育課程の履修並びに科目等履修生等については、大学設置基準第二十一条から第二十五条まで、第二十七条、第二十八条第一項（同条第二項において準用する場合を含む。）、第三十条第一項及び第三項、第三十条の二並びに第三十一条（第三項を除く。）の規定を準用する。この場合において、第二十八条第一項中「六十単位」とあるのは「十単位」と、同条第二項中「及び外国の」とあるのは「、外国の」と、「当該教育課程における授業科目を我が国において」とあるのは「当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合及び国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和五十一年法律第七十二号）第一条第二項に規定する千九百七十二年十二月十一日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（第三十五条第一項において「国際連合大学」という。）の教育課程における授業科目を」と、第三十条第三項中「前二項」とあるのは「第一項」と、「第二十八条第一項（同条第二項において準用する場合を含む。）及び前条第一項により当該大学において修得したものとみなす単位数と合わせて六十単位」とあるのは「十単位」と、第三十条の二中「修業年限」とあるのは「標準修業年限」と、「卒業」とあるのは「課程を修了」と読み替えるものとする。</p>	<p>（大学院設置基準第13条及び第14条の2と同一）</p>

二 施設及び設備に関すること

(1) 自己点検・評価の実施状況

1) 校地

校地面積は 73,524.52 m²、校舎面積は 13,820.64 m²、運動場用地は 9,516.350 m²であり、大学設置基準を満たし、学生が余裕をもって休息、交流その他に必要な設備が備えられている。キャンパスは J R 小野田線の雀田駅から徒歩 5 分の距離にあり、広々とした敷地、自然豊かなキャンパス内には多彩な施設や最新設備が整っている。

2) 運動場

キャンパス内には、体育館のほか、トレーニングルーム及び運動場（面積 9,516.35 m²）を配備し、授業や課外活動等で有効活用している。体育館 1 階のアリーナでは、バレーボール、バスケットボール、剣道、柔道等の活動ができ、多目的文化施設内のトレーニング室は、ウエイトトレーニング用の器具を整備している。新しいテニスコートを、令和 7 年 3 月末までに、校地内（面積約 3,013.6 m²）に整備する計画である。この間のテニスコートの代替として、大学から徒歩約 10 分の場所にある山陽小野田市浜河内緑地公園のテニスコート、小野田中央公園のテニスコートを利用している。また、学生が利用した際には、使用料金等を大学が負担し、経済的な便宜を図っている。

3) 校舎施設等

建物の耐震基準については、昭和 56（1981）年に定められた「新耐震基準」に基づいて設計施工されており、安全性が確保されている。生活環境に係る施設・設備のバリアフリー化に関しては、車椅子対応のトイレ、エレベーター、スロープ等を記載したサポートマップをホームページに掲載している。専任の教員に対しては研究室を配置している。講義室、演習室、実験・実習室は、2 号館、3 号館、5 号館、6 号館、7 号館及び 8 号館に配置され、適切な運用が行われている。

図書館は、教育研究上必要な資料を系統的に収集するとともに、5 号館の本館に加えて 7 号館に別館を配置して、資料提供の利便性向上を図っている。また、種々の文献検索・閲覧システムに対応すると同時に山陽小野田市立図書館をはじめとした他図書館との相互利用関係を構築して、館単独では避けがたい資料アクセスの不全性除去に努めている。さらに、本館内にアクティブ・ラーニング室を設置し、利用促進措置を講じている。加えて、図書館独自の自己点検・評価活動の一貫として、「図書館年報」の中で図書館の利用に関するアンケート調査を毎年実施し、教育研究環境の整備と適切な運営・管理とに役立っている。

情報処理のための施設として、5 号館にコンピュータ実習室と学生が自由に利用できるコンピュータラウンジを、6 号館に CBT でも活用するコンピュータラウンジを 2 室設置している。また学生が所有するノート PC を学内ネットワークに接続するための無線 LAN アクセスポイントを多数設置している。

また、大学構内に学生宿舎（学生寮）を 32 室設置しているほか、大学構内と、山陽小野田市の中央部に位置する市が運営する自然公園「江汐公園」の 2 箇所、薬学部附属薬用植物園を設置し、薬学教育を行うのに必要な薬用植物の栽培や育苗、収穫を行っている。

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	他機関と連携し、学生が様々な活動がしやすい環境を整備している点。図書館では、資料構成に常に目配りをして、必要に応じて、重点配分予算を用いて年度毎に柔軟かつ敏速に対応できる体制を整えている点。
改善を要する点	既存の施設・設備の更なる充実を図り、大学全体の教育・研究環境の整備に努める。

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
	大学設置基準	
①	<p>第三十四条（校地） 校地は、教育にふさわしい環境をもち、校舎の敷地には、学生が休息その他に利用するのに適当な空地を有するものとする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、大学は、法令の規定による制限その他のやむを得ない事由により所要の土地の取得を行うことが困難であるため前項に規定する空地を校舎の敷地に有することができないと認められる場合において、学生が休息その他に利用するため、適当な空地を有することにより得られる効用と同等以上の効用が得られる措置を当該大学が講じている場合に限り、空地を校舎の敷地に有しないことができる。</p> <p>3 前項の措置は、次の各号に掲げる要件を満たす施設を校舎に備えることにより行うものとする。</p> <p>一 できる限り開放的であって、多くの学生が余裕をもつて休息、交流その他に利用できるものであること。</p> <p>二 休息、交流その他に必要な設備が備えられていること。</p> <p>※ 必要な校地の面積については、大学設置基準第三十七条を参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ</p> <p>・キャンパス・附属施設紹介</p> <p>○認証評価共通基礎データ</p>
②	<p>第三十五条（運動場） 運動場は、教育に支障のないよう、原則として校舎と同一の敷地内又はその隣接地に設けるものとし、やむを得ない場合には適当な位置にこれを設けるものとする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、大学は、法令の規定による制限その他のやむを得ない事由により所要の土地の取得を行うことが困難であるため前項に規定する運動場を設けることができないと認められる場合において、運動場を設けることにより得られる効用と同等以上の効用が得られる措置を当該大学が講じており、かつ、教育に支障がないと認められる場合に限り、運動場を設けないことができる。</p> <p>3 前項の措置は、原則として体育館その他のスポーツ施設を校舎と同一の敷地内又はその隣接地に備えることにより行うものとする。ただし、やむを得ない特別の事情があるときは、当該大学以外の者が備える運動施設であって次の各号に掲げる要件を満たすものを学生に利用させることにより行うことができるものとする。</p> <p>一 様々な運動が可能で、多くの学生が余裕をもつて利用できること。</p> <p>二 校舎から至近の位置に立地していること。</p> <p>三 学生の利用に際し経済的負担の軽減が十分に図られているものであること。</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ</p> <p>・キャンパス・附属施設紹介</p> <p>○認証評価共通基礎データ</p>
③	<p>第三十六条（校舎施設等） 大学は、その組織及び規模に応じ、少なくとも次に掲げる専用の施設を備えた校舎を有するものとする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育研究に支障がないと認められるときは、この限りでない。</p> <p>一 学長室、会議室、事務室</p> <p>二 研究室、教室（講義室、演習室、実験・実習室等とする。）</p> <p>三 図書館、医務室、学生自習室、学生控室</p> <p>2 研究室は、専任の教員に対しては必ず備えるものとする。</p> <p>3 教室は、学科又は課程に応じ、必要な種類と数を備えるものとする。</p> <p>4 校舎には、第一項に掲げる施設のほか、なるべく情報処理及び語学の学習のための施設を備えるものとする。</p> <p>5 大学は、校舎のほか、原則として体育館を備えるとともに、なるべく体育館以外のスポーツ施設及び講堂並びに寄宿舎、課外活動施設その他の厚生補導に関する施設を備えるものとする。</p> <p>6 夜間において授業を行う学部（以下「夜間学部」という。）を置く大学又は昼夜開講制を実施する大学にあっては、研究室、教室、図書館その他の施設の利用について、教育研究に支障のないようにするものとする。</p> <p>※ 必要な校舎の面積及び設置する学部または学科ごとに必要な附属施設については、大学設置基準第三十七条の二・第三十九条・別表第三を参照すること</p> <p>※ 大学院を置く場合、大学院設置基準第十九条・第二十二条も参照すること</p> <p>※ 二以上の校地において教育研究を行う場合、大学設置基準第四十条の二、大学院設置基準第二十二条の二を参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ</p> <p>・キャンパス・附属施設紹介</p> <p>○認証評価共通基礎データ</p>
④	<p>第三十八条（図書等の資料及び図書館） 大学は、学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする。</p> <p>2 図書館は、前項の資料の収集、整理及び提供を行うほか、情報の処理及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、前項の資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力を努めるものとする。</p> <p>3 図書館には、その機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員を置くものとする。</p> <p>4 図書館には、大学の教育研究を促進できるような適当な規模の閲覧室、レファレンス・ルーム、整理室、書庫等を備えるものとする。</p> <p>5 前項の閲覧室には、学生の学習及び教員の教育研究のために十分な数の座席を備えるものとする。</p> <p>※ 大学院を置く場合、大学院設置基準第二十一条も参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学図書館規程</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ</p> <p>・図書館について</p> <p>○認証評価共通基礎データ</p>
⑤	<p>第四十条（機械、器具等） 大学は、学部又は学科の種類、教員数及び学生数に応じて必要な種類及び数の機械、器具及び標本を備えるものとする。</p> <p>※ 大学院を置く場合、大学院設置基準第二十条も参照すること</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学研究機器センター規程</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学機械設計工作センター規程</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部附属薬用植物園規程</p>

ホ 事務組織に関すること

(1) 自己点検・評価の実施状況

1) 事務組織

事務組織は、「公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学事務組織規程」に基づき、事務局を置き、総務部、学務部、地域連携部に職員を配置し、各業務責任者間の意見交換を積極的に実施し、業務の改善や各業務間の調整を行っている。

また、女性活躍推進の行動計画を作成し、女性人材の活用・登用を進めている。事務局では令和3年度は、係長級以上の職員の44%は女性職員となっている。

本学では、第一期中期計画において「第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標」を達成するために「人材育成の強化」を掲げ、適切な人事評価制度の確立、大学事務における専門性の強化、業務内容に応じた適材適所の配置及び人材確保、管理運営及び教育研究支援等の向上に向けた事務職員の職能開発等を実施することとしている。

このため、「事務職員人材育成基本方針」を定め、職員として求められる意識・意欲と各職階に求められる役割と能力を明確化し、それに応じた人事管理や人材育成等の主な取り組みを示し、職員一人ひとりがモチベーションを高く維持しつつ自らの能力を発揮、向上できるように、階級別研修等を行い組織全体で人材育成に努めている。

2) 厚生補導の組織

学生部委員会は、学生生活支援及び厚生補導全般に関して担当する組織で、学生部長、学科及び共通教育センターから選出された5名の教員及び学生支援課長で構成されている。原則として、毎月1回定例で委員会を開催し、学生生活支援及び厚生補導全般に関する事項を審議している。学生相談室は、臨床心理士（公認心理士）が（週5日）常駐し学生生活全般に関する相談を受け付ける。また、学生部委員会委員がチューター以外の相談窓口として役割を担い、学生支援課では、学生からの要望・意見を窓口で受け付け、相談内容により学生部委員会や教務幹事と連携しながら適切なアドバイスを行っている。

3) 社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うための体制

教育課程内外にわたる社会的・職業的自立に関する指導等の実施に向け、就職指導に関わる教員「就職幹事」、進路支援に関わる職員、キャリアコンサルタント、ジョブサポーターを配置し、キャリア教育の実施と就職・進学の実支援を行う体制を整備している。学生一人ひとりの就職活動情報は、キャリア支援課が一元管理し、教員と事務職員がその情報を共有し、きめ細かい支援を行っている。「リーダーシップ論」では、産業界の経営者やリーダーを講師として招聘し、討論と分析・発表等を行い、ビジネス社会におけるリーダー育成、起業家精神、グローバル思考の重要性を認識させるとともに、意思決定、分析力、価値観を醸成し、行動に繋げるきっかけを与え、リーダーシップとマネジメントスタイルについて学んでいる。

大学院における社会的・職業的自立に関する指導として、大学院修士課程1年次の必修科目として「キャリア指導」と「技術マネジメント論」を開講し、修士の学位の有する者として社会で活躍する心構えを養っている。

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	大学内の組織間の有機的な連携を図りながら教育課程内外にわたる社会的・職業的自立に関する指導を行っている。
改善を要する点	

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
	大学設置基準	
①	第四十一条（事務組織） 大学は、その事務を遂行するため、専任の職員を置く適当な事務組織を設けるものとする。	○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学事務組織規程 ○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学事務分掌規程
②	第四十二条（厚生補導の組織） 大学は、学生の厚生補導を行うため、専任の職員を置く適当な組織を設けるものとする。	○山陽小野田市立山口東京理科大学大学学生会規程 ○山陽小野田市立山口東京理科大学厚生保健施設運営規程
③	第四十二条の二（社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うための体制） 大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。	○山陽小野田市立山口東京理科大学就職幹事会規程 ○山陽小野田市立山口東京理科大学インターンシップ委員会
	大学院設置基準	
④	第四十二条（事務組織） 大学院を置く大学には、大学院の事務を遂行するため、適当な事務組織を設けるものとする。	○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学事務組織規程 ○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学事務分掌規程

(1) 自己点検・評価の実施状況

1) 卒業の認定に関する方針

学部では、学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確にし、何ができるようになるかに力点を置いて、どのような学修成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかという学位授与方針を定め、冊子「学修簿」及び大学のホームページに掲載し周知している。

大学院においても学位授与方針を定め、冊子「大学院要覧」及び大学ホームページに掲載し周知している。

2) 教育課程の編成及び実施に関する方針

教育課程編成・実施の方針を、次のとおり明確に定めている。

(工学部)

- ① 大学の理念に基づいて各学科が定める教育目標を実現するための教育課程を編成する。
- ② 高度な専門知識と応用技術を修得すると共に、人間や自然・環境を配慮した問題を解決できる能力、自己表現力や情報解析能力を修得できる体系的な教育課程を実践する。
- ③ 段階的な知識の修得を支援するため、一般的素養を深めるための「一般科目」、工学分野における各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、専門家としての能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
- ④ 「一般科目」は、「英語」科目の他、国際感覚、倫理、コミュニケーション、キャリア開発等の能力を修得できる「人間科学」科目を配置する。
- ⑤ 「基礎科目」は「基幹基礎科目」と「専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置する。
「基幹基礎科目」は工学部の学生にとって必修科目とし、「専門基礎科目」は学科ごとに特色ある「専門科目」との接続を図る。
- ⑥ 「専門科目」を通じて、各分野における高度な専門知識と応用技術、研究方法を修得し、事象の本質的な理解を深めるとともに、それぞれの分野で応用を創造できる能力と、課題を発見し解決できる能力を身につける。

(薬学部)

- ①大学の理念に基づいて薬学部が定める教育目標を実現するための教育課程を編成する。
- ②高い倫理観と研究心を持ち、薬学をとおして人々の健康を守るという志と自己研鑽力を持った人材を育成する。その基本理念を実現するため、教育課程を編成する。
- ③入学時から卒業時まで一貫して薬剤師・薬学人として、豊かな人間性と高い倫理観を持ち、患者本位の視点で人の命と健康な生活を守るという使命感と責任感を醸成する。
- ④「一般科目」では、自然科学・人文科学の各分野を広く俯瞰した上で、人命を最大限に尊重することのできるヒューマニティ豊かな人材を育むことを目的とする。その上で、語学力・コミュニケーション能力を身に付けることを目的として教育を実施する。
- ⑤薬剤師・薬学人の知識の基盤となる基礎薬学の科目の修得を重視する。十分な基礎的な科学力の土台の上に専門性の高い科目を設定する。
- ⑥「専門科目」では、講義科目に加えて、多くの実習・演習等の関連科目を効果的に組み合わせることにより、薬学の各専門分野に関する知識と技能・態度を深化させる。チーム医療を想定したスモールグループディスカッションを効果的に取り入れ、能動的な講義が中心になるよう編成する。
- ⑦地域の医療に貢献できる人材を養成するため、医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、薬物療法における実践的な能力を高めるとともに、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切に取れるよう指導する。
- ⑧卒業研究を充実させ、全教員が協力し、最先端の薬学研究にさまざまなアプローチから取り組む体制を構築する。卒業研究を通して教育能力・研究能力を持ち、問題解決能力の高い人材を養成する。

(大学院)

大学院工学研究科における教育課程は、機械工学、電気工学、情報科学、物質化学の分野に関連し、伝統的な学問区分や専門区分にとらわれない横断的・学際的な視点をもって理工学分野を展望し、広い視野に立って学識を養えるように編成している。この教育課程において修得した学識を活かして、自ら独創的な研究課題に取り組み、理学と工学の調和した研究及び応用の能力を培うとともに、技術者・研究者が備えるべき問題解決能力と倫理観を醸成する。

3) 入学者の受入れに関する方針

入学者受入れの方針は、「入学者選抜要項」及び「学生募集要項」に掲載するとともに、大学ホームページにより学内外に周知している。また、入試方式の募集単位ごとに、入学者に求める能力・適性等についての考え方をまとめた入学者選抜方針を設定し、入学者選抜の方法や出題内容等に反映させるように工夫している。

また、本学では、「卒業の認定に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」、「入学者の受け入れの方針」に基づき、機関レベル(大学)、教育課程レベル(学部・学科)、科目レベル(個々の科目)の3段階により、学修成果・教育成果を評価・測定を行う、「学習成果の評価方針」を定め、各方針の一貫性の確保に努めている。

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	3つの方針を明確に定め、周知に関する工夫を行っている。
改善を要する点	3つの方針の一貫性の確保をより明確にすることに努める。

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
①	<p>学校教育法施行規則</p> <p>第百六十五条の二 大学は、当該大学、学部又は学科若しくは課程（大学院にあつては、当該大学院、研究科又は専攻）ごとに、その教育上の目的を踏まえて、次に掲げる方針（大学院にあつては、第三号に掲げるものに限る。）を定めるものとする。</p> <p>一 卒業の認定に関する方針 二 教育課程の編成及び実施に関する方針 三 入学者の受入れに関する方針</p> <p>2 前項第二号に掲げる方針を定めるに当たっては、同項第一号に掲げる方針との一貫性の確保に特に意を用いなければならない。</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>建学の精神</u> ・ <u>教育研究上の目的</u> ・ <u>卒業の認定に関する方針（工学部）</u> ・ <u>教育課程の編成及び実施に関する方針（工学部）</u> ・ <u>入学者受入れの方針（工学部）</u> ・ <u>卒業の認定に関する方針（薬学部）</u> ・ <u>教育課程の編成及び実施に関する方針（薬学部）</u> ・ <u>入学者受入れの方針（薬学部）</u> ・ <u>学修成果に対する評価の方針</u>

ト 教育研究活動等の状況に係る情報の公表に関すること

(1) 自己点検・評価の実施状況

1) 教育研究活動等の情報公表

学校教育法施行規則第172条の2（教育研究活動等の情報の公表）に規定された教育情報については、法令を遵守し、ホームページで公表している。本学では、山陽小野田市立山口東京理科大学教育研究活動等の情報公表に関する取扱要領を定め、次の情報を公表している。

- ・ 大学の教育研究上の目的（建学の精神、教育研究理念、学部の教育研究上の目的等）
- ・ 教育研究上の基本組織（学部・大学院の紹介）
- ・ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績
- ・ 入学者に関する受入方針、入学者数及び入学者推移、収容定員数、在籍学生数、退学者数、卒業・修了者数、就職・進路状況
- ・ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス、授業予定等）
- ・ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（取得可能学位一覧、学位授与方針、学部卒業所要単位数、大学院修了の要件、学部別進級率、学位授与数）
- ・ 校地、校舎等の施設及び設備その他の教育研究環境
- ・ 授業料、入学料、その他の大学が徴収する費用
- ・ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
- ・ 教育上の目的に応じ、学生が習得すべき知識及び能力に関する情報
- ・ その他の情報（教員一人当たり学生数、収容定員充足率、産学官連携、特色ある取組）
- ・ 関係規程
- ・ 事業計画等（事業報告、財務情報、自己点検・評価）

このほか、本学の基本的な情報を「大学要覧」及び「財務レポート」としてとりまとめ、ホームページに掲載し公表している。

2) 社会教育活動の情報公表

本学では、「教育・研究と地域貢献が一体化した生涯教育の充実」を基本理念の一つとして掲げ、地域社会と地域産業の振興・発展に寄与する社会貢献活動に取り組んでいる。これらの取り組み状況を「地域連携・社会貢献レポート」、「研究シーズ集」としてとりまとめ、ホームページに掲載し公表している。

3) 環境教育研究活動の情報公表

高等教育機関の責務として、環境に関する教育研究活動を積極的に進めることが重要であると捉え、環境関連のカリキュラムを重視し、環境マインドを持った技術者及び薬剤師を育成することを環境方針のひとつとして掲げている。このような環境教育研究活動の情報を「環境報告書」としてとりまとめ、ホームページに掲載し公表している。

4) SDGs 研究活動の情報公表

本学は、国際目標である SDGs を視野に入れ、工学・薬学・人文社会学・自然科学を総合した視点により、科学技術のイノベーションと薬学をとおした健康増進を思考・俯瞰できる人材を地域社会に送り出すことを目標としている。このため、SDGs が目指す 17 のゴールに関する研究活動の情報をホームページに掲載し公表している。

己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	公表すべき事柄を要領として定め、積極的に情報公表に努めている。
改善を要する点	

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
	学校教育法	
①	第百十三条 大学は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ○山陽小野田市立山口東京理科大学 大学教育研究活動等の情報公表に関する取扱要領 ○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・情報公表 ○公立大学法人山陽小野田市立山口 東京理科大学事業報告書
	学校教育法施行規則	
②	第百七十二条の二 大学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。 <ol style="list-style-type: none"> 一 大学の教育研究上の目的及び第百六十五条の二第一項の規定により定める方針に関する こと 二 教育研究上の基本組織に関すること 三 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること 四 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数 及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること 五 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること 六 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること 七 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること 八 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること 九 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること <ol style="list-style-type: none"> 2 大学は、前項各号に掲げる事項のほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び 能力に関する情報を積極的に公表するよう努めるものとする。 3 第一項の規定による情報の公表は、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インタ ーネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○山陽小野田市立山口東京理科大学 大学教育研究活動等の情報公表に 関する取扱要領 ○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・情報公表 ・教員紹介 ・研究シーズ集 ・研究者データベース ○山陽小野田市立山口東京理科大学 大学案内 ○山陽小野田市立山口東京理科大学 大学要覧

チ 教育研究活動等の改善を継続的に行う仕組みに関すること

(1) 自己点検・評価の実施状況

本学では、大学の目的が実現されるように自己点検・評価を行い、それに基づいて各学科でそれぞれの使命・目的、さらにそれを実現するための学習教育目標を設定している。

工学部では、これらの学習教育目標を実現するための授業科目を1年生から4年生の期間に配置している。教育プログラムの自己点検・評価については、日本技術者教育認定機構（JABEE）における教育プログラムの点検手法を参考にして自己点検・評価報告書を作成し、日本技術者教育認定機構の分野別認証評価を受け、その後概ね3年又は6年ごとに評価を継続して受けている。

学部では学科内に委員会を作り、上記の大学の使命・目的が実現されるように自己点検・評価を行っている。

自己点検・評価委員会が全学科の自己点検・評価を総括し、機械工学科・電気工学科では学科会議のもとに教育点検委員会、カリキュラム検討委員会、JABEE委員会を設け自己点検・評価を定期的に行っている。この中で、学科会議は毎月1回開催され、各委員会の報告に基づき、必要に応じて審議や改善を行う。教育点検委員会は、成績評価・成績資料管理・シラバス内容の点検・評価を行う。カリキュラム点検委員会は年に1回学科カリキュラムの内容の確認を行う。応用化学科では、学科会議、JABEE委員会、点検委員会、分野別科目間委員会を設置し、自己点検・評価を行っている。

各学科会議では毎月各委員会の報告に基づき、必要に応じて審議や改善を行っている。教育点検委員会では毎年3月に公開前シラバス点検を行う。

この点検では学生に対して各授業での予習・復習等適切な情報が公開されているか否か、成績評価法が適切であるか否か等を確認する。また、4月に公開後シラバス点検を再度行い、公開前シラバスとの二重のチェックを行う。シラバスは年1回4月に更新されるので、この周期は適切である。毎年4月から5月に前年度及び前年度の後期、9月から10月に当該年度の前期の成績資料点検を行う。この点検では成績評価がシラバスに記載の通り客観的かつ適切に行われているか、証拠書類が適切に整理されているかを点検し、全教科について授業担当教員にフィードバックを行い、不適切な教科に関しては改善を要求し、再チェックを行う。カリキュラム検討委員会は7月から8月にかけて全教科の内容の適否の点検・評価を行う。結果は11月までにまとめ、11月の教授総会に提出し、審議ののちに翌年度の教科の変更が可能になるのでこの周期は適切である。

薬学部では、薬学部自己点検・評価委員会において、自己点検・評価を行っている。自己点検・評価書は、薬学教育評価機構（JABPE）の認定基準に基づき作成し、大学ホームページに掲載するなど、内部質保証の体制と教学マネジメントの確立に取り組んでいる。

工学部、薬学部ともに、教育プログラム責任者である学科主任が、3つのポリシーの改正、授業内容の見直し等の教育プログラムの改善計画を作成し、学長に報告している。

大学院では研究科幹事会・研究科会議・研究科委員会で自己点検・評価を行っている。研究科幹事会を毎月開催し、研究・教育及び大学院全般の事項の状況を把握して改善に取り組むとともに、重要な事項は、研究科会議で審議している。教育課程については、12月に研究科幹事会でカリキュラムを点検し、次年度に変更が必要な場合は原案を作成し、研究科会議に諮る。カリキュラムに従って作成された各科目のシラバスを3月に研究科長及び研究科幹事が点検を行っている。

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	カリキュラムの点検等を定期的に行っている。
改善を要する点	

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
	学校教育法	
①	<p>第九十九条 大学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（次項において「教育研究等」という。）の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。</p> <p>② 大学は、前項の措置に加え、当該大学の教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（以下「認証評価機関」という。）による評価（以下「認証評価」という。）を受けるものとする。ただし、認証評価機関が存在しない場合その他特別の事由がある場合であって、文部科学大臣の定める措置を講じているときは、この限りでない。</p> <p>③ 専門職大学院を置く大学にあつては、前項に規定するもののほか、当該専門職大学院の設置の目的に照らし、当該専門職大学院の教育課程、教員組織その他教育研究活動の状況について、政令で定める期間ごとに、認証評価を受けるものとする。ただし、当該専門職大学院の課程に係る分野について認証評価を行う認証評価機関が存在しない場合その他特別の事由がある場合であって、文部科学大臣の定める措置を講じているときは、この限りでない。</p> <p>④ 前二項の認証評価は、大学からの求めにより、大学評価基準（前二項の認証評価を行うために認証評価機関が定める基準をいう。次条において同じ。）に従って行うものとする。</p>	<p>○山陽小野田市立山口東京理科大学 自己点検及び評価実施規程</p> <p>○山陽小野田市立山口東京理科大学 自己点検評価書</p> <p>○公立大学法人山陽小野田市立山口 東京理科大学事業報告書</p> <p>○公立大学法人山陽小野田市立山口 東京理科大学第1期中期目標期間 業務実績見込報告書</p>
	学校教育法施行規則	
②	<p>第五十二条 学校教育法第九十条第二項の規定により学生を入学させる大学は、同項の入学に関する制度の運用の状況について、同法第九十九条第一項に規定する点検及び評価を行い、その結果を公表しなければならない。</p>	
③	<p>第五十八条 学校教育法第二百二条第二項の規定により学生を入学させる大学は、同項の入学に関する制度の運用の状況について、同法第九十九条第一項に規定する点検及び評価を行い、その結果を公表しなければならない。</p>	
④	<p>第六十六条 大学は、学校教育法第九十九条第一項に規定する点検及び評価を行うに当たっては、同項の趣旨に即し適切な項目を設定するとともに、適当な体制を整えて行うものとする。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学 自己点検及び評価実施規程
	大学設置基準	
⑤	<p>第二条の三（教員と事務職員等の連携及び協働） 大学は、当該大学の教育研究活動等の組織的かつ効果的な運営を図るため、当該大学の教員と事務職員等との適切な役割分担の下で、これらの者の間の連携体制を確保し、これらの者の協働によりその職務が行われるよう留意するものとする。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学 総合戦略会議規程
⑥	<p>第二十五条の三（教育内容等の改善のための組織的な研修等） 大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学 FD委員会規程
⑦	<p>第四十二条の三（研修の機会等） 大学は、当該大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（第二十五条の三に規定する研修に該当するものを除く。）の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。</p>	○公立大学法人山陽小野田市立山口 東京理科大学 SD 委員会に関する規 程
	大学院設置基準	
⑧	<p>第一条の四（教員と事務職員等の連携及び協働） 大学院は、当該大学院の教育研究活動等の組織的かつ効果的な運営を図るため、当該大学院の教員と事務職員等との適切な役割分担の下で、これらの者の間の連携体制を確保し、これらの者の協働によりその職務が行われるよう留意するものとする。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学 大学院運営規程
⑨	<p>第十四条の三（教育内容等の改善のための組織的な研修等） 大学院は、当該大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学 FD委員会規程
⑩	<p>第四十三条（研修の機会等） 大学院は、当該大学院の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（第十四条の三に規定する研修に該当するものを除く。）の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。</p>	○公立大学法人山陽小野田市立山口 東京理科大学 SD 委員会に関する規 程
	法令外の関係事項	
⑪	<p>学習成果 学生の学習成果を適切に把握する取組を行っているか。</p>	○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・学修成果に対する評価の方針

リ 財務に関すること

(1) 自己点検・評価の実施状況

1) 必要な経費の確保

設立団体の長である山陽小野田市長が、本法人が達成すべき業務運営に関する6ヶ年の中期目標を定める。中期目標には「財務内容の改善に関する事項」を記載することが定められ、設立団体の長は、本法人に中期目標を指示する前に、評価委員会の意見を聴き、議会の議決を経ている。

本法人では、当該中期目標を達成するための6ヶ年の中期計画を作成し、設立団体の長の認可を受ける。当該中期計画には、予算、収支計画、資金計画、短期借入金の限度額、出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画、重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画を定めている。

設立団体の長は、本法人が申請した中期計画の認可をしようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならない。

また、本法人では、毎事業年度の開始前に、中期計画に基づき、その事業年度の業務運営、予算、収支計画、資金計画及び出資等に関する年度計画を定め、これを設立団体の長に届け出るとともに、大学ホームページに掲載し公表している。

地方独立行政法人法第77条第1項により公立大学法人に置くこととされる経営審議機関において、中期目標について市長に述べる意見に関する事項のうち、法人の経営に関するもの、中期計画及び年度計画に関する事項のうち、法人の経営に関するもの、予算の作成及び執行並びに決算に関する事項等について審議することを定款第20条において定めている。また、同法第77条第3項により公立大学法人に置くこととされる教育研究審議機関において、中期目標について市長に述べる意見、中期計画及び年度計画に関する事項のうち、教育研究に関するもの等について審議することを定款第25条において定めている。

設立団体の長は、「公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学運営費交付金交付規則」に基づき、運営費交付金を、中期目標を達成するために活動する法人の業務の財源に充てることにより、法人の持続的な運営を確保することを目的として本法人に交付している。本法人では、学生生徒納付金や外部資金等の自主財源と設立団体から交付される運営費交付金を財源により、法人を運営している。

2) 教育研究環境の整備

教育研究環境の質的充実、老朽化する施設の安全性の確保、環境への負荷の低減、地域との連携などの取り組むべき課題に対し適切に対応しつつ、教育研究活動の基盤となるキャンパス全体の整備・活用を図る「キャンパスマスタープラン」を策定している。

また、経年30年、あるいは大規模改修後30年以上の建物等施設のうち、老朽化した未改修部分の面積(約1万㎡)に関して、大学の運営に支障がないように予算の平準化を図り、教育研究環境の基盤整備を行う。これらについて、中長期にわたり必要となる修繕等整備の試算を前提に、適切な維持管理の方向性を示す「インフラ長寿命化計画」(個別施設計画)を策定のうえ計画的に整備している。

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	キャンパスマスタープラン、インフラ長寿命化計画を策定し、計画的に施設の有効利用に努めている。
改善を要する点	

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
大学設置基準		
①	<p>第四十条の三（教育研究環境の整備） 大学は、その教育研究上の目的を達成するため、必要な経費の確保等により、教育研究にふさわしい環境の整備に努めるものとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学財務諸表 ○ 山陽小野田市公立大学法人の業務運営並びに財務及び会計に関する規則 ○ 公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学目的積立金取扱規程
大学院設置基準		
②	<p>第二十二條の三（教育研究環境の整備） 大学院は、その教育研究上の目的を達成するため、必要な経費の確保等により、教育研究にふさわしい環境の整備に努めるものとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学財務諸表 ○ 山陽小野田市公立大学法人の業務運営並びに財務及び会計に関する規則 ○ 公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学目的積立金取扱規程

又 イからりまでに掲げるもののほか、教育研究活動等に関すること

(1) 自己点検・評価の実施状況

1) ICT環境の整備

コンピュータ関連の機器を教室に配置し、授業に取り入れて活用する環境を整備している。講義の復習支援、授業のオンデマンド配信、学生の履修管理、学生による授業評価アンケート実施等を、e-PortfolioやLMS (Learning Management System) 上で行っている。

また、タブレット端末と教員が開発したシステムといったICTを活用し、反転授業を取り入れている科目について教員同士による研究授業を行い、各教員が独自に工夫・蓄積した授業方法を共有することで相互の授業改善に役立てている。

2) 教職協働による学生への授業支援

学生一人ひとりに対して、チューター教員制を設け、学生個人別に学習・生活指導を実施している。学習サポート教室では、数学や物理学、化学などの基礎科目から専門科目の学びを、助教及び助手が学生個々の習熟度に合わせて学習を支援する制度であり、授業で十分理解できなかったことがあるといった相談に丁寧に応じている。学生による学習支援としてピアサポートを取り入れ、教職員とは異なる立場から大学生活を経験した先輩学部学生がピアサポーターとして、学部1年生や留学生の勉学上の相談や学生生活の相談に応じている。

3) 特別な学生支援

障害のある学生の円滑な修学等を支援するため、全学的な組織として学生特別支援窓口を設置し、障害学生コーディネーターとして、臨床心理士が障害のある学生のカウンセリングを行う体制を整備している。

4) 学生に対する経済的支援

授業料については、「公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学授業料の免除及び徴収猶予等に関する規程」に基づき、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業成績が良好である学生に対し、申請により申請資格、学力基準、家計基準に基づき選考を行い、授業料の全額又は半額を免除している。入学金については、市内在住者や大学院生のうち学内進学者に対し、入学金の半額を免除する制度を実施している。大学院博士後期課程の入学者のうち成績が優秀である学生の授業料の半額を免除している。

奨学金による支援として、日本学生支援機構が実施する奨学金制度のほか、本学独自の奨学金制度「山陽小野田市立山口東京理科大学特待生奨学金」を導入し、学業において特に優秀な成績を修めた各学科・各学年および大学院修士課程2年の1名に対し10万円を給付している。

また、山陽小野田市立山口東京理科大学修学支援事業基金により、学部又は大学院修士課程に在籍する学生のうち、経済的理由により修学が困難であり、かつ、学業成績が良好であると認められる学生を対象に、海外留学における経済的支援として10万円を給付している。

5) 設置計画履行状況等調査の結果を踏まえた改善

平成30年度に設置した6年制の薬学部薬学科は、令和5年度に完成年度を迎えるが、設置計画どおりの履行を進めている。設置計画履行状況等調査の結果、文部科学大臣からの意見、是正又は改善の指摘は、特になしの判定となっている。

自己評価結果	以上の自己点検・評価の内容を踏まえ、当該評価事項に適合していると判断する。
優れた点	学生の学習支援に対する体制が整備され、適切に支援が行われている。
改善を要する点	計画的に教育のデジタル化を推進する

(2) 関係法令等に対応する関連資料

番号	関係法令等	関連資料
①	ICT環境の整備 教育研究上で必要なICT環境が整備されている。	○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・コンピュータ環境 ○SOCU コンピュータ利用案内 ○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学情報ネットワーク利用規程
②	学生支援 学生の学習支援に対する体制が整備され、適切に支援が行われている。	○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・チューター制度 ・学修サポート教室 ・ピアサポート ○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学授業囑託(非常勤)規程 ○山陽小野田市立山口東京理科大学リサーチ・アシスタント規程
③	学生支援 特別な支援を行うことが必要な学生への支援等が適切に行われている。	○山陽小野田市立山口東京理科大学学生相談規程 ○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学における障害を理由とする差別の解消推進に関する対応要領 ○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学における障害を理由とする差別の解消推進に関する対応要領における留意事項
④	学生支援 経済的な支援を行うことが必要な学生への支援等が適切に行われている。	○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・奨学金サポート制度 ・公共交通活用フリーパス ○公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学授業料の免除及び徴収猶予等に関する規程 ○山陽小野田市立山口東京理科大学特待生奨学金規程 ○山陽小野田市立山口東京理科大学奨学基金規程 ○山陽小野田市立山口東京理科大学大学院博士後期課程の授業料の減免に係る取扱要領
⑤	設置計画履行状況等調査の結果を踏まえた是正・改善 設置計画履行状況等調査の結果を踏まえた大学の教育活動等の是正または改善に関する文部科学大臣の意見に対して講じた措置を踏まえ、是正または改善に努めている。	○山陽小野田市立山口東京理科大学 WEB ページ ・薬学部履行状況報告書

Ⅱ 「基準 2 教育研究の水準の向上」に関する点検評価資料

1) 自己分析活動の状況

<p>入学者受入れの方針の明確化と周知 学部・学科の目的を山陽小野田市立山口東京理科大学学則（以下「学則」という。）第4条において明確に定め、この目的を踏まえ、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。学部のアドミッション・ポリシーは、学部の学生募集要項とホームページに、大学院のアドミッション・ポリシーは、大学院の学生募集要項とホームページに掲載し、広く周知している。</p> <p>教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化 学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、明確に定め、学部の教育課程編成・実施の方針を受け、各学科の教育課程編成・実施の方針を定めている。大学院においても、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に定め、教育課程編成・実施の方針を受け、修士課程及び博士後期課程における教育課程編成・実施の方針を明確に定めている。カリキュラム・ポリシーはホームページに掲載し、広く周知している。</p> <p>単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用 本学では、学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確にし、何ができるようになるかに力点を置いて、どのような学修成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかという学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を、明確に定めている。この方針は冊子「学修簿」及びホームページに掲載し、広く周知を図っている。</p>	<p>大学院では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、研究・教育成果を達成した者に対して学位を授与している。この方針は大学ホームページ及び冊子「大学院要覧」に示し、周知徹底を図っている。</p> <p>教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発 授業担当教員は、学期末に成績表を提出する際、FD委員長宛にS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の割合や、シラバスの遵守、試験やレポート等の難易度の適正評価や教授法の改善等を記述した「教育効果測定結果報告書」を同時に提出することにより、教育目的の達成状況を点検している。</p> <p>学生が1年次に履修する基礎科目や英語と、専門科目とのつながりや教授内容をチェックするために、各学科と共通教育センターとを横断した合同カリキュラム検討会を実施している。</p> <p>各期末に、科目毎（複数クラスの科目については教員毎）に学生に対して、授業に関するアンケートを実施している。設問は、出欠状況、取り組み方、シラバス、プリント・板書等の授業方法等のほかに、自由記述欄と教員が設問を設定できる等の工夫をしており、学生の率直な意見や教員が懸念している点の評価等を反映できるようになっている。</p>
--	--

2) 自己分析活動の取組み（目次） ※学習成果に関する分析の取組み等を1つ以上記述します

No.	タイトル	ページ数
1	学生受入れに関する活動の取組み	38
2	教育課程及び教授方法に関する活動の取組み	39
3	単位認定、卒業・修了認定等に関する活動の取組み	40
4	教育目標の達成状況の評価とフィードバックに関する活動の取組み	41
5	専門分野別認証評価機関による工学教育の質の保証	42

3) 自己分析活動の取組み

タイトル (No. 1)	学生受入れに関する活動の取組み
分析の背景	<p>入学者受入れの方針に沿って、入試方式の募集単位ごとに、入学者に求める能力・適性等についての考え方をまとめた入学者選抜方針を設定し、入学者選抜の方法や出題内容等に反映させるように工夫している。入学者選抜方針は、入学者選抜要項と学生募集要項に掲載し、学内外に周知している。入学者選抜方針に基づき、学生受入れ方法を工夫している。</p>
分析の内容	<p>1) 入学者受入れの方針の明確化と周知 学部の目的を山陽小野田市立山口東京理科大学学則（以下「学則」という。）第4条において明確に定め、この目的を踏まえ、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）が定められている。学部の入学者受入れの方針については、入学者選抜要項、学生募集要項、ホームページに掲載するとともに、オープンキャンパス、進学相談会、高校内ガイダンスや高校教員対象入試説明会において説明を行い、広く周知している。大学院のアドミッション・ポリシーは、学生募集要項及びホームページに掲載し、周知している。</p> <p>2) 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持 新入生と父母にアンケートを継続的に実施し、入学試験の結果を大学要覧やファクトブックとして取り纏め、入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持に努めている。 学部の入学定員充足率は、入学定員320人に対し、入学者は、平成30年度332人（同104%）、平成31年度368人（同115%）、令和2年度331人（同103%）、令和3年度333人（同104%）、令和4年度348人（同109%）である。 また、令和4年度における収容定員充足状況は、収容定員1,280人に対し、学生数1,457人（収容定員充足率114%）である。</p> <p>3) 学生の受入れの改善・向上方策 大学における在籍学生数については、大学設置基準第18条第3項において、「大学は、教育にふさわしい環境の確保のため、在学する学生の数を収容定員に基づき適正に管理するものとする」とされている。このため、入学者受入れの方針に沿い、学生受入れ方法の工夫の継続とともに、入学定員の管理を厳格に行うように努める。大学院では、学部学生の段階で卒業研究やキャリア関係科目等を通して、大学院の研究や教育の重要性を伝え、大学院進学を促進を図る。</p>
自己評価	<p>入学者受入れの方針に沿い、学生受入れ方法の工夫の継続とともに、入学定員の管理を厳格に行うように努めることにより、さらなる発展と、工夫を行うよう努める。大学院では、学部学生の段階で卒業研究やキャリア関係科目等を通して、大学院の研究や教育の重要性を伝え、大学院進学を促進を図っている。</p>
関連資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）（工学部）</u> ・ <u>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）（薬学部）</u> ・ <u>入学者選抜要項</u> ・ <u>山陽小野田市立山口東京理科大学大学要覧</u> ・ 山陽小野田市立山口東京理科大学 FACT BOOK（新入生・父母アンケート編） ・ 山陽小野田市立山口東京理科大学 FACT BOOK（入試データ編）

タイトル (No. 2)	教育課程及び教授方法に関する活動の取組み
分析の背景	<p>教育課程編成・実施の方針に従い、授業科目の区分を「一般科目」、「基礎科目」、「専門科目」の3種類を体系的に配置している。教育課程は、授業科目の区分により体系的に編成し、工学部では4年間、薬学部では6年間を一体とした教育を行っている。</p>
分析の内容	<p>1) チューター制の導入 専任教員が学生一人一人を担当し、学生の成績や履修状況を考慮しながら、履修や学生生活に関する助言を行うチューター制を導入し、きめ細かな学生に対するサポートを実施している。</p> <p>2) 学修計画表（ポートフォリオ）の導入 学生は、1年間にわたる各自の学修計画表（ポートフォリオ）を作成し、各自ポートフォリオに従って学習に励み、その結果を学期末に成績（達成度評価）として自分自身で学習計画の実施状況を点検する。学生は、チューターのアドバイスを受け、必要ならば学修計画を見直すサイクルを自ら管理することにより修業年限における卒業を成し遂げる。ポートフォリオでは、学生自身が年間の学修目的・目標を定め、履修科目の決定等の実行計画（PLAN）、計画の実行（DO）、学期末における成績等の達成度点検（CHECK）、学修計画の見直し（ACT）のPDCAサイクルを回すことで課題を明らかにし、教育課程の体系的学修に関する理解を深めるようにしている。</p> <p>3) アクティブ・ラーニングの導入 学生の能動的な学修の充実に向け、地域の団体（地元企業、商工会議所、自治体）や企業と連携し、当該団体の課題解決に学生が主体的に関与する課題解決型授業や、フィールドワークを融合したアクティブ・ラーニングを導入している。</p> <p>4) サービス・ラーニングの導入 理論に加えて実社会とのつながりを意識した教育を行うため、地域社会における奉仕活動に一定期間参加した学生に単位を与える「ボランティア活動」の授業を導入し、チームで働く力、前に踏み出す力、考え抜く力といった市民及び社会人として必要な資質・能力を身に付けるようにしている。</p> <p>5) 大学院における教授方法の工夫 大学院生が自分の専門分野以外の専門分野についても学ぶ機会を与えるために、「特論」（専門分野の2科目と他分野1科目）、外部講師による特別講義（専門分野1講座と他分野1講座）を選択必修科目として設定している。</p>
自己評価	<p>学位授与方針、教育課程編成・実施、入学者受け入れの方針の3方針が関連し合う教育を実践するとともに、教育課程の編成、学生の学修方法の在り方を必要に応じて見直すことにより、大学教育の質を担保し、授与される学位の社会的信頼性を高めるよう努める。「シラバス」と、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針を基に、学生に身につけさせる知識・能力と授業科目との対応関係を示した「カリキュラムマップ」「カリキュラムツリー」を有効的に活用している。</p>
関連資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）（工学部）</u> ・ <u>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）（薬学部）</u> ・ <u>シラバス</u> ・ <u>カリキュラムツリー</u> ・ <u>カリキュラムマップ</u>

タイトル (No. 3)	単位認定, 卒業・修了認定等に関する活動の取組み
分析の背景	<p>学部では、学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確にし、何ができるようになるかに力点を置いて、どのような学修成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかという学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を、定めている。学部の修業年限及び卒業の要件は、学則第 15 条から第 16 条に規定している。卒業の要件に関する詳細を冊子「学修簿」に掲載し、学生と教職員に周知し適切に実施している。</p>
分析の内容	<p>1) 学修成果の評価基準（アセスメント・ポリシー）</p> <p>本学における教育活動の改善・充実を図ることを目的として、学修成果の評価基準（アセスメント・ポリシー）を明確に定め、①3つの方針（学位授与の方針、教育課程の編成・実施方針、入学者受け入れ方針）に基づく各種の取り組み状況について、②学位授与の方針に定める学生が修得すべき資質・能力等に対して、大学全体（機関）、教育課程（学部・学科等）、授業科目のレベル別に把握・測定し、その達成状況を評価・検証している。</p> <p>全学又は各学部・学科及び大学院工学研究科では、成果指標を定め、その達成状況を客観的に評価（測定）し、改善活動へ活用している。</p> <p>2) 学修成果の評価方法</p> <p>学修結果は、各授業科目の学業成績を、秀（S：90 点以上 100 点以下）、優（A：80 点以上 90 点未満）、良（B：70 点以上 80 点未満）、可（C：60 点以上 70 点未満）、不可（D：59 点以下）で評価表記し、可（C）以上を合格とする。成績評価方法はシラバスに記載しており、講義・演習科目は演習・小問、レポート、定期テストの配点を示し、実験・実習科目は参加姿勢、レポート、演習小問で評価する。合格点（C 評価 60 点以上）でその授業科目の学習教育目標を達成したことになる。</p> <p>学生の総合的な学業成績を客観的に評価し成績状況を確認するため GPA（Grade Point Average）を導入している。GPA は、成績表記 S、A、B、C、D のそれぞれに対応して評価ポイント GP=4、3、2、1、0 を与え、授業科目の単位の値を考慮し、総履修単位数の平均値として算出される。GPA は、特待生奨学金の選考、卒業研究室の研究室配属及び学修支援等に活用している。</p> <p>習熟度別クラス授業にて行う科目の学修成果の評価は、定期試験を全クラス共通の試験問題により実施し、クラス担当教員が共同で分担採点することで、公平性を担保している。また、共通試験問題は採点に参加しない担当教員が中心に作成している。定期試験の結果は、授業中に適時行う小テストや演習の結果とともに、シラバスに記載された成績評価方法により評価する。再試験制度は、必修科目の成績評価が不合格の場合、再度試験に挑戦する機会を与えるもので、再試験の有無は予めシラバスに記載される。</p>
自己評価	<p>基礎科目や英語のような同一の科目で複数のクラスがある科目の成績評価は、公平を期するために、前述のように試験問題作成や採点に工夫をしている。また、シラバスは同一としているが、普段の授業や演習問題等は各教員の裁量による部分が多い。</p> <p>これらの課題を解決するためには、共通教育センターと学科間の合同カリキュラム検討会を利用した担当者間の綿密な打ち合わせや、平素からの話し合いが重要になってくる。以上に述べたことが組織的、計画的に行われるよう仕組み作りをすることによって、今後さらなる工夫を行う。</p>
関連資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）（工学部）</u> ・ <u>学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）（薬学部）</u> ・ <u>学修成果に対する評価の方針（アセスメント・ポリシー）</u> ・ <u>山陽小野田市立山口東京理科大学シラバス</u> ・ <u>山陽小野田市立山口東京理科大学工学部学修簿</u> ・ <u>山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部学修簿</u>

タイトル (No. 4)	教育目標の達成状況の評価とフィードバックに関する活動の取組み
分析の背景	<p>授業担当教員は、学期末に成績表を提出する際、FD 委員長宛に S (100～90 点)、A (89～80 点)、B (79～70 点)、C (69～60 点)、D (59 点以下) の割合や、シラバスの遵守、試験やレポート等の難易度の適正評価や教授法の改善等を記述した「教育効果測定結果報告書」を同時に提出することにより、教育目的の達成状況を点検している。</p>
分析の内容	<p>1) 合同カリキュラム検討会 基礎科目と専門科目とのつながりや教授内容をチェックするために、各学科と共通教育センターとを横断した合同カリキュラム検討会を実施している。この会議では、教授内容の取捨選択、定期試験問題の適切性、クラス分けに用いられるプレースメントテストの妥当性等について議論している。習熟度クラス編成を実施している科目責任者は、各担当教員から定期試験のデータ等の提供を受け、結果をまとめてレビューすることになっており、このことについても合同カリキュラム検討会で話し合われる。</p> <p>2) 授業に関するアンケート 各期末に、科目毎（複数クラスの科目については教員毎）に学生に対して、授業に関するアンケートを実施している。設問は、出欠状況、取り組み方、シラバス、プリント・板書等の授業方法等のほかに、自由記述欄と教員が設問を設定できる等の工夫をし、学生の率直な意見や教員が懸念している点の評価を反映できるようにしている。</p> <p>3) 教育効果測定結果報告 授業担当教員から提出された「教育効果測定結果報告書」を受けて、その科目の合格者（60点以上）の割合が定期試験全受験者の65%に満たない場合は、授業観察対象となり、FD委員が当該教員の授業を見学するシステム（授業観察）を導入している。</p> <p>4) 授業観察 授業観察では、FD委員が観察者となり、当該教員の授業を見学し授業の進め方や教え方は適切であるか、授業はシラバス通りに進められているか、学生からの要望事項を取り入れ授業の改善を行っているか、その他授業法改善に取り組むべき点はないか等について点検・評価を行い、教育の持続的な改善・向上に取り組んでいる。</p> <p>5) 研究授業 授業担当教員と参観教員との意見交換とワークショップを行い、優れた教授法や教授技能を教員間で共有する「研究授業」を行い、各教員が独自に工夫・蓄積した授業方法を共有することで、相互の授業改善に役立っている。</p> <p>6) FDセミナー 授業内容及び授業方法の改善を図るための組織的な研修の一環として、外部講師によるFDセミナーを毎年度開催している。</p>
自己評価	<p>教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発として教員による教育効果測定結果報告書の提出、合同カリキュラム検討会、学生アンケート等を行っており、それぞれ教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果がフィードバックされるような施策を実施している。今後は、教員にフィードバックされた内容が、その後どのように推移しているかということをチェックするシステムを確立することにより更なる発展を目指す。</p>
関連資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山陽小野田市立山口東京理科大学 FACT BOOK（大学生生活意識調査編） ・ 山陽小野田市立山口東京理科大学授業に関するアンケート結果 ・ 山陽小野田市立山口東京理科大学教育効果測定結果報告書 ・ 山陽小野田市立山口東京理科大学授業観察結果報告書

タイトル (No. 5)	専門分野別認証評価機関による工学教育の質の保証
分析の背景	<p>工学教育の質を保証するために、技術者教育プログラムの第三者評価機関である日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準に基づき、工学教育の学科自己点検・評価を行い、専門分野別認証評価を継続的に受審・認証を受けている。</p>
分析の内容	<p>本学では、技術者教育の質を保証し、国際同等性を確保するために、平成 14 年度に物質・環境工学科（現応用化学科）の応用化学コース、平成 17 年度に電子・情報工学科（現電気工学科）の電子・制御工学プログラムが、日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定を受け、我が国の高等教育機関では初となる全学科認定を受けた。</p> <p>平成 21 年度の工学部改組後も、機械工学科「機械システムコース」、電気工学科「電気電子情報工学科コース」、応用化学科「応用化学コース」が JABEE の認定を受け、基礎学力とそれを応用できる柔軟性と創造性を併せ持った人材を育成している。これら 3 コースは、平成 30 年（2018 年）の継続審査に合格し、令和 6 年 3 月まで認定されている。</p> <p>各学科とも JABEE 認定教育課程の学習・教育目標を定め、学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ、本教育課程を選択する場合の履修登録方法を適切に設定し「学修簿」に掲載することで明示している。JABEE 認定教育課程を修了し、社会で活躍しながら実務経験を重ねて技術士取得を目指す卒業生に対しては、本学学内にある「理窓技術士会やまぐち」と姉妹校の東京理科大学にある「理窓技術士会」が、技術士第二次試験対策の支援を受けることができる体制を整備している。</p> <p>公立大学法人化後は、設立団体の長が定める 6 年間の中期目標に基づき、本学で作成する中期計画及び年度計画は、①教育研究等の質の向上に関すること、②地域社会との連携、地域貢献に関すること、③業務運営の改善及び効率化に関すること、④財務内容の改善に関すること、⑤自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関すること、⑥その他業務運営に関する重要事項で構成され、当該年度の業務実績を自己評価し、経営審議会及び教育研究審議会の議を経て、業務実績報告書を設立団体の長へ届け出ている。</p> <p>また、法人法第 11 条及び第 28 条により設立母体（山陽小野田市）に設置された山陽小野田市公立大学法人評価委員会の評価を毎年受けることとなっている。</p>
自己評価	<p>工学部機械工学科、電気工学科、応用化学科では、学科会議のもとに教育点検委員会、カリキュラム検討委員会、JABEE 委員会を設け、自己点検・評価を定期的に行っている。この中で、学科会議は毎月 1 回開催され、各委員会の報告に基づき、必要に応じて審議や改善を行う。教育点検委員会は、成績評価・成績資料管理・シラバス内容の点検・評価を行う。カリキュラム点検委員会は年に 1 回学科カリキュラムの内容の確認を行っている。</p>
関連資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>工学部機械工学科「機械システムコース」カリキュラム表</u> ・ <u>工学部電気工学科「電気電子工学コース」カリキュラム表</u> ・ <u>工学部応用化学科「応用化学コース」カリキュラム表</u>

Ⅲ 「基準 3 特色ある教育研究の進展」に関する点検評価資料

1) 特色ある教育研究の状況

山陽小野田市立山口東京理科大学は、地方都市における落ち着いた教育環境のもと、薬工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成に貢献することを目的としている。

また、教育及び研究とともに、地域創生における「知のローカル・ハブ」という役割を果たし、地域社会と地域産業の振興・発展に寄与する社会貢献機能を備えた個性ある大学となることを基本姿勢としている。

在籍する学部学科に関わらず、数理・データサイエンス・AIに関する科目を履修することを可能とした学部横断型の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」では、地域社会と地域産業を題材に、データサイエンスを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付ける教育を行い、約64%の学生が履修している。

設立母体である山陽小野田市から提示された中期目標のうち、「地域社会との連携、地域貢献に関する目標」の達成に向け、本学の中期計画では次の取組みを進めている。

- ・ 地域コミュニティの中核的存在としての拠点化
- ・ 産業界との連携
- ・ 政策形成等に貢献するシンクタンク機能の発揮
- ・ 学生の地元定着



これらの計画を実現するため、地域に貢献する特色ある教育研究を組織的に行っているが特に重要と考える活動は次のとおりである。

- 1) 地域産業の技術的課題をテーマにしたプロジェクト学習「地域技術学」
- 2) 地域の知を教育に活かす取組み「地域密着型卒業研究」
- 3) 山陽小野田市立山口東京理科大学「地域課題解決研究事業」
- 4) 人間・社会・科学を幅広く俯瞰する教育「学術と地域文化」
- 5) 地域医療の課題をテーマにしたプロジェクト学習「山口県地域医療学」

2) 特色ある教育研究の取組み（目次）

No.	タイトル	ページ数
1	地域産業の技術的課題をテーマにしたプロジェクト学習「地域技術学」	46
2	地域の知を教育に活かす取組み「地域密着型卒業研究」	47
3	山陽小野田市立山口東京理科大学「地域課題解決研究事業」	49
4	人間・社会・科学を幅広く俯瞰する教育「学術と地域文化」	51
5	地域医療の課題をテーマにしたプロジェクト学習「山口県地域医療学」	53

3) 特色ある教育研究の取組み

タイトル (No. 1)	地域産業の技術的課題をテーマにしたプロジェクト学習「地域技術学」																		
取組の概要	<p>山陽小野田市内の企業が抱える技術的課題について、学生がグループで現地を見ながら現実を学びつつ、ブレインストーミングや KJ 法、SWOT 分析などのツールを駆使して、課題の解決方法を検討し、発表するプロジェクト学習である。</p>																		
取組の成果	<p>社会人基礎力を習得し、地域産業の現状について理解し、さらには地域における課題解決の助力となることを目的している。</p> <p>令和3年度は、宇部フィルム株式会社、大阪新薬株式会社、共英製鋼株式会社、中国電力株式会社新小野田発電所、長州産業株式会社、都市産業株式会社、永山酒造合名会社、日鍛バルブ株式会社、BASF 戸田バッテリーマテリアルズ合同会社、株式会社明防の10社に協力をいただいた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">学生による現地視察（永山酒造）</p> <p>令和4年度は、宇部フィルム株式会社、大阪新薬株式会社、共英製鋼株式会社、中国電力株式会社新小野田発電所、長州産業株式会社、都市産業株式会社、永山酒造合名会社、BASF 戸田バッテリーマテリアルズ合同会社、株式会社明防の9社に協力をいただいた。</p> <p>この他、経済・社会・環境・制度の持続可能な発展の4本柱から地域社会における産業の役割を考える「地域産業論」、学生が山陽小野田市内でフィールドワークを行い、集めたデータを統計的に分析し地域課題の解決を考える「地域社会学」や、市内企業インターンシップ、市内企業見学などに取り組んでおり、山陽小野田市内に立地する企業への就職状況は、下表のとおりとなる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市内就職者数</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	市内就職者数	2	5	6	14	18	7	14	7
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4											
市内就職者数	2	5	6	14	18	7	14	7											
自己評価	<p>地域技術学を履修した学生の授業評価アンケートでは、この授業に関して授業内容に興味をもって学習意欲が増したと回答した学生が約95%と多く、他県から入学した学生を含め、具体的な進路先として地域産業界に目を向けるきっかけとなっていると判断できる。</p>																		
関連資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域技術学」シラバス ・山陽小野田市立山口東京理科大学地域連携・社会貢献レポート ・山陽小野田市立山口東京理科大学事業報告書 																		

タイトル (No. 2)	地域の知を教育に活かす取組み「地域密着型卒業研究」																																												
取組の概要	<p>工学部の卒業研究において、地域が抱える課題をテーマにした地域密着型の卒業研究に取り組んでいる。大学では、地域に関する卒業研究を奨励しており、地域卒業研究に取り組む研究室には、学長裁量経費から実験実習費として、研究テーマごとに最大10万円の加算配分を行っている。</p>																																												
取組の成果	<p>平成29年度は6研究室（計8テーマ）、平成30年度は10研究室（計20テーマ）、令和元年度は8研究室（計10テーマ）、令和2年度は4研究室（計4テーマ）、令和3年度は6研究室（計8テーマ）、令和4年度は11研究室（計21テーマ）が採用された。主な研究テーマは次のとおりである。</p>																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="347 685 568 891">学科</th> <th data-bbox="568 685 778 898">研究室</th> <th data-bbox="778 685 1453 898">研究テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="347 898 568 987">工学部 機械工学科</td> <td data-bbox="568 898 778 987">結城和久</td> <td data-bbox="778 898 1453 987">翼竜研究を活用した山陽小野田市内小学生に対する出前教育活動の活性化</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 987 568 1066">工学部 機械工学科</td> <td data-bbox="568 987 778 1066">結城和久</td> <td data-bbox="778 987 1453 1066">山陽小野田市内農村部における夏冬ハイブリッド農業の提案</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1066 568 1144">工学部 電気工学科</td> <td data-bbox="568 1066 778 1144">阿武宏明</td> <td data-bbox="778 1066 1453 1144">火力発電所における未利用熱回収熱発電システムの検討</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1144 568 1223">工学部 応用化学科</td> <td data-bbox="568 1144 778 1223">池上啓太</td> <td data-bbox="778 1144 1453 1223">吸着剤と触媒との融合による循環型二酸化炭素変換システムの開発</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1223 568 1301">工学部 応用化学科</td> <td data-bbox="568 1223 778 1301">池上啓太</td> <td data-bbox="778 1223 1453 1301">水素製造を可能にする水分解用光触媒電極の開発</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1301 568 1379">薬学部 薬学科</td> <td data-bbox="568 1301 778 1379">相良英憲</td> <td data-bbox="778 1301 1453 1379">山口県における薬局業務拡大に向けた現状把握と拡大可能な業務予測</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1379 568 1458">薬学部 薬学科</td> <td data-bbox="568 1379 778 1458">尾家重治</td> <td data-bbox="778 1379 1453 1458">山陽小野田市立中央図書館での図書の清潔保持法の検討</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1458 568 1536">薬学部 薬学科</td> <td data-bbox="568 1458 778 1536">田中宏幸</td> <td data-bbox="778 1458 1453 1536">長門ゆずきち(CitrusNagato-yuzukichi)の抗菌活性の探索研究</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1536 568 1648">薬学部 薬学科</td> <td data-bbox="568 1536 778 1648">恵谷誠司</td> <td data-bbox="778 1536 1453 1648">避難所における災害支援ができる薬剤師育成のための研修プログラムの開発</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1648 568 1749">薬学部 薬学科</td> <td data-bbox="568 1648 778 1749">恵谷誠司</td> <td data-bbox="778 1648 1453 1749">山陽小野田市における妊婦・授乳婦の医薬品等の適正使用に向けた啓発</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1749 568 1861">薬学部 薬学科</td> <td data-bbox="568 1749 778 1861">恵谷誠司</td> <td data-bbox="778 1749 1453 1861">医薬品自発報告データベースの解析に基づく薬学部 薬学科生主体の副作用防止啓発活動に関するアンケート調査（モデル地域：山陽小野田市）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1861 568 1973">薬学部 薬学科</td> <td data-bbox="568 1861 778 1973">恵谷誠司</td> <td data-bbox="778 1861 1453 1973">山陽小野田市およびその周辺地域に暮らす外国人への災害啓発ならびに地域医療提供施設との関係促進を目的としたツール作成</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1973 568 2040">薬学部 薬学科</td> <td data-bbox="568 1973 778 2040">恵谷誠司</td> <td data-bbox="778 1973 1453 2040">山陽小野田市の高校生・大学生を対象としたサプリメント・健康食品の適</td> </tr> </tbody> </table>	学科	研究室	研究テーマ	工学部 機械工学科	結城和久	翼竜研究を活用した山陽小野田市内小学生に対する出前教育活動の活性化	工学部 機械工学科	結城和久	山陽小野田市内農村部における夏冬ハイブリッド農業の提案	工学部 電気工学科	阿武宏明	火力発電所における未利用熱回収熱発電システムの検討	工学部 応用化学科	池上啓太	吸着剤と触媒との融合による循環型二酸化炭素変換システムの開発	工学部 応用化学科	池上啓太	水素製造を可能にする水分解用光触媒電極の開発	薬学部 薬学科	相良英憲	山口県における薬局業務拡大に向けた現状把握と拡大可能な業務予測	薬学部 薬学科	尾家重治	山陽小野田市立中央図書館での図書の清潔保持法の検討	薬学部 薬学科	田中宏幸	長門ゆずきち(CitrusNagato-yuzukichi)の抗菌活性の探索研究	薬学部 薬学科	恵谷誠司	避難所における災害支援ができる薬剤師育成のための研修プログラムの開発	薬学部 薬学科	恵谷誠司	山陽小野田市における妊婦・授乳婦の医薬品等の適正使用に向けた啓発	薬学部 薬学科	恵谷誠司	医薬品自発報告データベースの解析に基づく薬学部 薬学科生主体の副作用防止啓発活動に関するアンケート調査（モデル地域：山陽小野田市）	薬学部 薬学科	恵谷誠司	山陽小野田市およびその周辺地域に暮らす外国人への災害啓発ならびに地域医療提供施設との関係促進を目的としたツール作成	薬学部 薬学科	恵谷誠司	山陽小野田市の高校生・大学生を対象としたサプリメント・健康食品の適		
	学科	研究室	研究テーマ																																										
	工学部 機械工学科	結城和久	翼竜研究を活用した山陽小野田市内小学生に対する出前教育活動の活性化																																										
	工学部 機械工学科	結城和久	山陽小野田市内農村部における夏冬ハイブリッド農業の提案																																										
	工学部 電気工学科	阿武宏明	火力発電所における未利用熱回収熱発電システムの検討																																										
	工学部 応用化学科	池上啓太	吸着剤と触媒との融合による循環型二酸化炭素変換システムの開発																																										
	工学部 応用化学科	池上啓太	水素製造を可能にする水分解用光触媒電極の開発																																										
	薬学部 薬学科	相良英憲	山口県における薬局業務拡大に向けた現状把握と拡大可能な業務予測																																										
	薬学部 薬学科	尾家重治	山陽小野田市立中央図書館での図書の清潔保持法の検討																																										
	薬学部 薬学科	田中宏幸	長門ゆずきち(CitrusNagato-yuzukichi)の抗菌活性の探索研究																																										
	薬学部 薬学科	恵谷誠司	避難所における災害支援ができる薬剤師育成のための研修プログラムの開発																																										
	薬学部 薬学科	恵谷誠司	山陽小野田市における妊婦・授乳婦の医薬品等の適正使用に向けた啓発																																										
	薬学部 薬学科	恵谷誠司	医薬品自発報告データベースの解析に基づく薬学部 薬学科生主体の副作用防止啓発活動に関するアンケート調査（モデル地域：山陽小野田市）																																										
薬学部 薬学科	恵谷誠司	山陽小野田市およびその周辺地域に暮らす外国人への災害啓発ならびに地域医療提供施設との関係促進を目的としたツール作成																																											
薬学部 薬学科	恵谷誠司	山陽小野田市の高校生・大学生を対象としたサプリメント・健康食品の適																																											



			正使用に係る啓発資材の作成
薬学部 薬学科	恵谷誠司		若年層を中心とした大麻の正しい理解に関する啓発教材の開発
薬学部 薬学科	恵谷誠司		高齢者のフレイル予防のための植物と鳥を楽しむ散歩コースの設定
薬学部 薬学科	有海秀人		心不全治療後の再入院を予防する地域で活躍する薬剤師の役割
薬学部 薬学科	有海秀人		山口県民へのセルフメディケーション及び一般用医薬品の適正使用に向け た山口県健康エキスパート薬剤師の役割
薬学部 薬学科	稲見圭子		山口県産農産物(厚保くり、秋芳梨)のラジカル消去作用
薬学部 薬学科	稲見圭子		山口県産農産物小野茶によるDNA損傷抑制作用
薬学部 薬学科	立花研		山陽小野田市に飛来する浮遊粒子状物質の性状の季節性変動と健康影響
薬学部 薬学科	田所高志		次世代バイオ医薬品開発を目指す人工小型抗体の高機能化
	<p>地域卒業研究の終了後は、学内にて卒業研究発表会を行い、学生が研究成果の発表を行った。</p> <p>また、地域に関わる教育・研究成果の展示として、山陽小野田市役所、厚狭地区複合施設、山陽小野田市立中央図書館にて巡回展示を行っている。(令和3～4年度については新型コロナウイルス感染症予防のため中止)</p>		
			
自己評価	<p>学生が地域の課題を研究し、社会に役立つ工学を開拓できる専門知識と応用力を身に付けることができた。また、研究成果を地域に還元することで、社会貢献に資している。</p>		
関連資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山陽小野田市立山口東京理科大学地域連携・社会貢献レポート ・ 山陽小野田市立山口東京理科大学事業報告書 ・ 「卒業研究」シラバス 		

タイトル (No. 3)	山陽小野田市立山口東京理科大学「地域課題解決研究事業」																																																					
取組の概要	<p>地域課題解決研究事業とは、本学の研究活動の振興を図るとともに、地（知）の拠点として、地域産業の振興や公立大学の使命である地域と伴に発展し、大学の研究により地域貢献するために実施するもので、研究費用は全額大学負担で実施するものである。当該事業の研究テーマは、大学教員自らが問題提起し取り組むものや、市内の公共的団体から寄せられた課題に取り組むものなど様々であるが、その研究成果は広く地域に還元される。</p>																																																					
取組の成果	<p>一件あたりの研究事業費の上限を 50 万円とし、課題提案者が抱える課題を解決するため、本学教員による研究の成果を期待する地域産業の振興や地域課題の解決に資する研究課題を単年度で募集した。</p> <p>1) 目的 市民及び市内の地方公共団体、公的機関、公共的団体、企業等が抱える地域課題を解決し、その研究成果を地域に還元する。</p> <p>2) 研究内容 本学教員等及び市民、市内の地方公共団体、公的機関、公共的団体等から提案された地域課題に本学教員が単独で又は共同で取り組む研究。 (教):教員が提案した課題、(公):公共団体等から提案の課題がある。</p> <p>この結果、令和 4 年度は次のとおり応募があり、地域連携センター運営委員会における審査の結果、教員からの課題 11 件、公共団体等からの課題 2 件の計 13 件の研究事業が採択された。</p> <p>令和 4 年度(2022 年度) 地域課題解決研究事業応募一覧 (【教】11 件、【公】7 件)</p> <p>【教員等が提案した課題への取組み】</p> <table border="1" data-bbox="363 1077 1374 2020"> <thead> <tr> <th data-bbox="363 1077 440 1144">管理 No.</th> <th data-bbox="440 1077 730 1144">研究課題</th> <th data-bbox="730 1077 919 1144">取組団体組織名／代表者</th> <th data-bbox="919 1077 1118 1144">提案者(本学教員等)</th> <th data-bbox="1118 1077 1374 1144">共同研究者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="363 1144 440 1249">教 1</td> <td data-bbox="440 1144 730 1249">山口東京理科大学と山陽小野田薬剤師会および医師会との「残薬」に関する取り組み</td> <td data-bbox="730 1144 919 1249">山陽小野田市立山口東京理科大学</td> <td data-bbox="919 1144 1118 1249">薬学部 薬学科 准教授 相良 英憲</td> <td data-bbox="1118 1144 1374 1249">教授 小野 浩重、 講師 山本 晃之、 山陽小野田薬剤師会 会長 上林 雅樹</td> </tr> <tr> <td data-bbox="363 1249 440 1305">教 2</td> <td data-bbox="440 1249 730 1305">介護施設や学校における消毒薬などの適正使用の推進</td> <td data-bbox="730 1249 919 1305">山陽小野田市立山口東京理科大学</td> <td data-bbox="919 1249 1118 1305">薬学部 薬学科 教授 尾家 重治</td> <td data-bbox="1118 1249 1374 1305">教授 河合 伸也</td> </tr> <tr> <td data-bbox="363 1305 440 1473">教 3</td> <td data-bbox="440 1305 730 1473">幼児および地域における感染対策教育ツールの活用と感染対策教育向上の取り組み</td> <td data-bbox="730 1305 919 1473">山陽小野田市立山口東京理科大学</td> <td data-bbox="919 1305 1118 1473">薬学部 薬学科 講師 坂井久美子</td> <td data-bbox="1118 1305 1374 1473">教授 百溪 江、 教授 緒方 浩二、 助教 福島 聡、 山口県薬剤師会 学校薬剤師理事 学外研究者 小林 晃子</td> </tr> <tr> <td data-bbox="363 1473 440 1641">教 4</td> <td data-bbox="440 1473 730 1641">プラチナプリントを指向した複合金属コロイドとの融合による小野和紙の高付加価値化</td> <td data-bbox="730 1473 919 1641">宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会 会長・徳原幹男(打診中)</td> <td data-bbox="919 1473 1118 1641">工学部 応用化学科 教授 白石 幸英</td> <td data-bbox="1118 1473 1374 1641">大学院生(M2) 谷 七海、 大学院生(M1) 猪原 啓希、 大学院生(M1) 塩崎 祐太、 応用化学科 助教 秦慎一、 日本写真学会 写真技術解説家 水口 淳</td> </tr> <tr> <td data-bbox="363 1641 440 1720">教 5</td> <td data-bbox="440 1641 730 1720">地域特産海産物である海苔のアンチエイジング効果の検証</td> <td data-bbox="730 1641 919 1720">宇部岬海苔養殖実行組合 組合長・橋本直喜</td> <td data-bbox="919 1641 1118 1720">薬学部 薬学科 教授 井上 幸江</td> <td data-bbox="1118 1641 1374 1720">安田女子大学 薬学部 薬学科 教授 赤木 玲子</td> </tr> <tr> <td data-bbox="363 1720 440 1798">教 6</td> <td data-bbox="440 1720 730 1798">小野茶抽出物の健康寿命の延伸に関わる代謝応答因子群への生理的影響評価</td> <td data-bbox="730 1720 919 1798">宇部小野茶業組合 組合長・藤田 博義</td> <td data-bbox="919 1720 1118 1798">薬学部 薬学科 講師 沖田 直之</td> <td data-bbox="1118 1720 1374 1798">該当なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="363 1798 440 1877">教 7</td> <td data-bbox="440 1798 730 1877">「花の海」産作物の抗老化性機能評価を通じた市内農業の対ハイソサエティブランド構築</td> <td data-bbox="730 1798 919 1877">株式会社 花の海 社長 前島 昭博</td> <td data-bbox="919 1798 1118 1877">薬学部 薬学科 准教授 伊豫田 拓也</td> <td data-bbox="1118 1798 1374 1877">該当なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="363 1877 440 1933">教 8</td> <td data-bbox="440 1877 730 1933">大学生との交流による子どもの社会性の変容に関する実証的研究</td> <td data-bbox="730 1877 919 1933">埴生てる 代表・久保田宏司</td> <td data-bbox="919 1877 1118 1933">共通教育センター 講師 中村 洋</td> <td data-bbox="1118 1877 1374 1933">該当なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="363 1933 440 2020">教 9</td> <td data-bbox="440 1933 730 2020">生涯学習「医薬品の適正使用」: その始まりとしての地域児童に対するおくすり教室</td> <td data-bbox="730 1933 919 2020">山陽小野田薬剤師会 会長 上林雅樹</td> <td data-bbox="919 1933 1118 2020">薬学部 薬学科 准教授 武藤 純平</td> <td data-bbox="1118 1933 1374 2020">教授 和田 光弘、 助教 高田 誠</td> </tr> </tbody> </table>				管理 No.	研究課題	取組団体組織名／代表者	提案者(本学教員等)	共同研究者	教 1	山口東京理科大学と山陽小野田薬剤師会および医師会との「残薬」に関する取り組み	山陽小野田市立山口東京理科大学	薬学部 薬学科 准教授 相良 英憲	教授 小野 浩重、 講師 山本 晃之、 山陽小野田薬剤師会 会長 上林 雅樹	教 2	介護施設や学校における消毒薬などの適正使用の推進	山陽小野田市立山口東京理科大学	薬学部 薬学科 教授 尾家 重治	教授 河合 伸也	教 3	幼児および地域における感染対策教育ツールの活用と感染対策教育向上の取り組み	山陽小野田市立山口東京理科大学	薬学部 薬学科 講師 坂井久美子	教授 百溪 江、 教授 緒方 浩二、 助教 福島 聡、 山口県薬剤師会 学校薬剤師理事 学外研究者 小林 晃子	教 4	プラチナプリントを指向した複合金属コロイドとの融合による小野和紙の高付加価値化	宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会 会長・徳原幹男(打診中)	工学部 応用化学科 教授 白石 幸英	大学院生(M2) 谷 七海、 大学院生(M1) 猪原 啓希、 大学院生(M1) 塩崎 祐太、 応用化学科 助教 秦慎一、 日本写真学会 写真技術解説家 水口 淳	教 5	地域特産海産物である海苔のアンチエイジング効果の検証	宇部岬海苔養殖実行組合 組合長・橋本直喜	薬学部 薬学科 教授 井上 幸江	安田女子大学 薬学部 薬学科 教授 赤木 玲子	教 6	小野茶抽出物の健康寿命の延伸に関わる代謝応答因子群への生理的影響評価	宇部小野茶業組合 組合長・藤田 博義	薬学部 薬学科 講師 沖田 直之	該当なし	教 7	「花の海」産作物の抗老化性機能評価を通じた市内農業の対ハイソサエティブランド構築	株式会社 花の海 社長 前島 昭博	薬学部 薬学科 准教授 伊豫田 拓也	該当なし	教 8	大学生との交流による子どもの社会性の変容に関する実証的研究	埴生てる 代表・久保田宏司	共通教育センター 講師 中村 洋	該当なし	教 9	生涯学習「医薬品の適正使用」: その始まりとしての地域児童に対するおくすり教室	山陽小野田薬剤師会 会長 上林雅樹	薬学部 薬学科 准教授 武藤 純平	教授 和田 光弘、 助教 高田 誠
管理 No.	研究課題	取組団体組織名／代表者	提案者(本学教員等)	共同研究者																																																		
教 1	山口東京理科大学と山陽小野田薬剤師会および医師会との「残薬」に関する取り組み	山陽小野田市立山口東京理科大学	薬学部 薬学科 准教授 相良 英憲	教授 小野 浩重、 講師 山本 晃之、 山陽小野田薬剤師会 会長 上林 雅樹																																																		
教 2	介護施設や学校における消毒薬などの適正使用の推進	山陽小野田市立山口東京理科大学	薬学部 薬学科 教授 尾家 重治	教授 河合 伸也																																																		
教 3	幼児および地域における感染対策教育ツールの活用と感染対策教育向上の取り組み	山陽小野田市立山口東京理科大学	薬学部 薬学科 講師 坂井久美子	教授 百溪 江、 教授 緒方 浩二、 助教 福島 聡、 山口県薬剤師会 学校薬剤師理事 学外研究者 小林 晃子																																																		
教 4	プラチナプリントを指向した複合金属コロイドとの融合による小野和紙の高付加価値化	宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会 会長・徳原幹男(打診中)	工学部 応用化学科 教授 白石 幸英	大学院生(M2) 谷 七海、 大学院生(M1) 猪原 啓希、 大学院生(M1) 塩崎 祐太、 応用化学科 助教 秦慎一、 日本写真学会 写真技術解説家 水口 淳																																																		
教 5	地域特産海産物である海苔のアンチエイジング効果の検証	宇部岬海苔養殖実行組合 組合長・橋本直喜	薬学部 薬学科 教授 井上 幸江	安田女子大学 薬学部 薬学科 教授 赤木 玲子																																																		
教 6	小野茶抽出物の健康寿命の延伸に関わる代謝応答因子群への生理的影響評価	宇部小野茶業組合 組合長・藤田 博義	薬学部 薬学科 講師 沖田 直之	該当なし																																																		
教 7	「花の海」産作物の抗老化性機能評価を通じた市内農業の対ハイソサエティブランド構築	株式会社 花の海 社長 前島 昭博	薬学部 薬学科 准教授 伊豫田 拓也	該当なし																																																		
教 8	大学生との交流による子どもの社会性の変容に関する実証的研究	埴生てる 代表・久保田宏司	共通教育センター 講師 中村 洋	該当なし																																																		
教 9	生涯学習「医薬品の適正使用」: その始まりとしての地域児童に対するおくすり教室	山陽小野田薬剤師会 会長 上林雅樹	薬学部 薬学科 准教授 武藤 純平	教授 和田 光弘、 助教 高田 誠																																																		

	教 10	外来がん化学療法における薬薬連携の状況把握と新たなツールの開発	下関薬剤師会 会長 中川 明人	薬学部 薬学科 准教授 有海 秀人	下関市薬剤師会 副会長 中川 明人、 事務局長 増谷 裕美、 日本調剤下関薬局 管理薬剤師 前田 竜祐
	教 11	地域食資源に着目した新規機能性テルペノイド成分の探索研究	山陽小野田市立 山口東京理科大学	薬学部 薬学科 助教 今堀 大輔	該当なし
【公共団体等から提案された、課題への取組み】					
管 理 No.	研究課題	取組団体組織名/ 代表者	取組申請者	共同研究者	
公 1	猪による農地の被害対策やゴルフ場等の営業施設(コース等)被害対策	山陽商工会議所			
公 2	ジビエ産業における鹿と猪の捕獲の効率化の取組としてどのわなにかかったかが直ぐにわかる仕組み。猪・鹿の各個体の移動経路・住み家の把握により捕獲の安定化につなげる。	山陽商工会議所			
公 3	巨大農業ハウス内の植物苗、野菜、果物の成育確認、出荷適合度確認、植物の病気発見等。農薬散布の効率化。	山陽商工会議所	工学部 機械工学科 教授 永田 寅臣	小野田商工会議所に属する 農業従事者の方	
公 4	アサリが採捕出来なくなった原因解明。アサリが成育可能な自然環境(水質改善等)改善対策。	山陽商工会議所			
公 5	複数公共交通機関が連携した、利便性の高い未来志向型の交通インフラの提案	山陽小野田市経済 部商工労働課 課長 田尾忠久			
公 6	山口東京理科大学を核とした総合型地域スポーツクラブの設立について(R3から継続事業) ※総合型地域スポーツクラブの設立による地域スポーツの振興、地域コミュニティの活性化	山陽小野田市市民 部文化スポーツ推 進課 文化スポーツ推進 課長 石田恵子	共通教育センター 講師 宇野 直士	該当なし	
公 7	中小企業、零細企業及び個人事業者のIT活用とデジタルシフト推進について	小野田商工会議所 会頭 藤田 敏彦			
<p>※教 1～教 11 及び公 3、公 6 について取り組んだ。その他については、取組の申請者がいなかったため不採択となった。</p>					
自己評価	<p>昨年度と同様に、対象研究の条件を研究成果が広く公表できる事業とした。</p> <p>また、地域課題解決研究事業は、本学の研究活動の振興を図るとともに、地(知)の拠点として、地域産業の振興や地域課題の解決に貢献することを目的として取り組んでおり、令和 5 年 3 月 13 日(月)に開催された研究成果発表会には、市からも参加があり、学生、教員の発表を熱心に聞かれており、研究成果を広く公表することができた。</p> <p>なお、最終の成果報告書は、山口県大学共同リポジトリに(令和 5 年 6 月以降)掲載する。</p>				
関連資料	<p>・ <u>令和 4 年度 研究推進機構 研究成果発表会について</u></p>				

タイトル (No. 4)	人間・社会・科学を幅広く俯瞰する教育「学術と地域文化」																																																																						
取組の概要	<p>人文科学、社会科学及び自然科学などを広く学び、物事を多角的にみる能力を養う。哲学、文学、芸術、社会学、政治、経済、地理、歴史、医療、環境等あらゆる分野の一線で、また、地域で活躍する講師の話聞き、学び、考える。「人間・社会・科学を幅広く俯瞰できる能力」を養い、「地域の歴史・文化の理解」を深めるための教育を行っている。</p>																																																																						
取組の成果	<p>学内外の特別講師による講義、「学術と地域文化1」及び「学術と地域文化2」を合わせ、年30回の講義を全学的に開講した。</p> <p>主に山陽小野田市、山口県で活躍されている方々による文化、歴史、政治、観光、産業などの紹介、薬学及び周辺領域で行われている教育・研究に関わる最先端のトピックスなどを紹介するものである。令和4年度のテーマと講義は次のとおりである。</p> <p>さらに、人文科学、社会科学、自然科学、健康科学の様々な分野の専門教員が、特定のテーマを軸に、授業参加学生と共に討議を行う文理融合教養教育、異分野・学際領域教育を新たに導入し、現代社会が直面する課題に対応できる人材を育成する授業「教養の系譜」を令和2年度から開講した。</p> <table border="1" data-bbox="395 846 1433 1995"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th>講師氏名</th> <th>所属等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月13日(水)</td><td>藤田 剛二</td><td>山陽小野田市長</td></tr> <tr><td>4月20日(水)</td><td>杉浦 佳子</td><td>2021年東京パラオリンピックロード金メダリスト</td></tr> <tr><td>4月28日(木)</td><td>調 恒明</td><td>山口県環境保健センター所長一</td></tr> <tr><td>5月11日(水)</td><td>小野田 淳人</td><td>山口東京理科大学薬学部助教</td></tr> <tr><td>5月18日(水)</td><td>吉田 力久</td><td>山口県薬剤師会会長</td></tr> <tr><td>5月25日(水)</td><td>久保 久美子</td><td>全日本かるた協会永世クィーン</td></tr> <tr><td>6月1日(水)</td><td>玉村 信一</td><td>萩焼陶芸家</td></tr> <tr><td>6月8日(水)</td><td>西川 慎</td><td>ガラス工芸作家</td></tr> <tr><td>6月15日(水)</td><td>中嶋 克行</td><td>山陽小野田市福祉部高齢福祉課主任技師</td></tr> <tr><td>6月22日(水)</td><td>豊島 聡</td><td>公益財団法人日本薬剤師研修センター理事長</td></tr> <tr><td>6月29日(水)</td><td>國澤 純</td><td>医薬基盤・健康・栄養研究所教授</td></tr> <tr><td>7月7日(木)</td><td>狭間 研至</td><td>一般社団法人日本在宅薬学会理事長</td></tr> <tr><td>7月13日(水)</td><td>尾山 貴子</td><td>山陽小野田市健康増進課次長</td></tr> <tr><td>7月20日(水)</td><td>磯部 総一郎</td><td>公益社団法人日本薬剤師会専務理事</td></tr> <tr><td>7月27日(水)</td><td>樽井 隆直</td><td>セントラル硝子株式会社 宇部工場</td></tr> <tr><td>9月20日(火)</td><td>中屋 豊</td><td>東都春日部病院 名誉院長、徳島大学 名誉教授</td></tr> <tr><td>9月27日(火)</td><td>中島 伸樹</td><td>山陽小野田市立山口東京理科大学 施設管理課職員・獣医師</td></tr> <tr><td>10月4日(火)</td><td>浅井 義之</td><td>山口大学大学院医学系研究科 AI システム医学・医療研究教育センター</td></tr> <tr><td>10月11日(火)</td><td>白澤 文吾</td><td>山口大学大学院医学系研究科医学教育学講座</td></tr> <tr><td>10月18日(火)</td><td>中津井 雅彦</td><td>山口大学大学院医学系研究科 AI システム医学・医療研究教育センター</td></tr> <tr><td>11月1日(火)</td><td>半矢 幸子</td><td>山陽小野田市食生活改善推進協議会</td></tr> <tr><td>11月8日(火)</td><td>村中 隆</td><td>株式会社UBE 科学分析センター 有機分析研究室</td></tr> </tbody> </table>		日付	講師氏名	所属等	4月13日(水)	藤田 剛二	山陽小野田市長	4月20日(水)	杉浦 佳子	2021年東京パラオリンピックロード金メダリスト	4月28日(木)	調 恒明	山口県環境保健センター所長一	5月11日(水)	小野田 淳人	山口東京理科大学薬学部助教	5月18日(水)	吉田 力久	山口県薬剤師会会長	5月25日(水)	久保 久美子	全日本かるた協会永世クィーン	6月1日(水)	玉村 信一	萩焼陶芸家	6月8日(水)	西川 慎	ガラス工芸作家	6月15日(水)	中嶋 克行	山陽小野田市福祉部高齢福祉課主任技師	6月22日(水)	豊島 聡	公益財団法人日本薬剤師研修センター理事長	6月29日(水)	國澤 純	医薬基盤・健康・栄養研究所教授	7月7日(木)	狭間 研至	一般社団法人日本在宅薬学会理事長	7月13日(水)	尾山 貴子	山陽小野田市健康増進課次長	7月20日(水)	磯部 総一郎	公益社団法人日本薬剤師会専務理事	7月27日(水)	樽井 隆直	セントラル硝子株式会社 宇部工場	9月20日(火)	中屋 豊	東都春日部病院 名誉院長、徳島大学 名誉教授	9月27日(火)	中島 伸樹	山陽小野田市立山口東京理科大学 施設管理課職員・獣医師	10月4日(火)	浅井 義之	山口大学大学院医学系研究科 AI システム医学・医療研究教育センター	10月11日(火)	白澤 文吾	山口大学大学院医学系研究科医学教育学講座	10月18日(火)	中津井 雅彦	山口大学大学院医学系研究科 AI システム医学・医療研究教育センター	11月1日(火)	半矢 幸子	山陽小野田市食生活改善推進協議会	11月8日(火)	村中 隆	株式会社UBE 科学分析センター 有機分析研究室
日付	講師氏名	所属等																																																																					
4月13日(水)	藤田 剛二	山陽小野田市長																																																																					
4月20日(水)	杉浦 佳子	2021年東京パラオリンピックロード金メダリスト																																																																					
4月28日(木)	調 恒明	山口県環境保健センター所長一																																																																					
5月11日(水)	小野田 淳人	山口東京理科大学薬学部助教																																																																					
5月18日(水)	吉田 力久	山口県薬剤師会会長																																																																					
5月25日(水)	久保 久美子	全日本かるた協会永世クィーン																																																																					
6月1日(水)	玉村 信一	萩焼陶芸家																																																																					
6月8日(水)	西川 慎	ガラス工芸作家																																																																					
6月15日(水)	中嶋 克行	山陽小野田市福祉部高齢福祉課主任技師																																																																					
6月22日(水)	豊島 聡	公益財団法人日本薬剤師研修センター理事長																																																																					
6月29日(水)	國澤 純	医薬基盤・健康・栄養研究所教授																																																																					
7月7日(木)	狭間 研至	一般社団法人日本在宅薬学会理事長																																																																					
7月13日(水)	尾山 貴子	山陽小野田市健康増進課次長																																																																					
7月20日(水)	磯部 総一郎	公益社団法人日本薬剤師会専務理事																																																																					
7月27日(水)	樽井 隆直	セントラル硝子株式会社 宇部工場																																																																					
9月20日(火)	中屋 豊	東都春日部病院 名誉院長、徳島大学 名誉教授																																																																					
9月27日(火)	中島 伸樹	山陽小野田市立山口東京理科大学 施設管理課職員・獣医師																																																																					
10月4日(火)	浅井 義之	山口大学大学院医学系研究科 AI システム医学・医療研究教育センター																																																																					
10月11日(火)	白澤 文吾	山口大学大学院医学系研究科医学教育学講座																																																																					
10月18日(火)	中津井 雅彦	山口大学大学院医学系研究科 AI システム医学・医療研究教育センター																																																																					
11月1日(火)	半矢 幸子	山陽小野田市食生活改善推進協議会																																																																					
11月8日(火)	村中 隆	株式会社UBE 科学分析センター 有機分析研究室																																																																					

	11月15日(火)	小林 晃子	山口県薬剤師会 学校薬剤師部会
	11月22日(火)	篠田 晃	山口大学大学院医学系研究科神経解剖学講座
	11月29日(火)	町田 佳男	田辺三菱製薬工場株式会社
	12月6日(火)	有友 啓一	田辺三菱製薬株式会社 サプライチェーン本部
	12月13日(火)	李 桃生	長崎大学原爆後障害医療研究所幹細胞生物学研究分野
	12月20日(火)	池辺 祐介	秋芳台自然動物公園サファリランド
	1月17日(火)	末廣 寛	山口大学大学院医学系研究科臨床検査・腫瘍学講座
	1月24日(火)	小林 誠	山口大学医学部先進予防医学講座
自己評価	<p>本学の基本理念である「世界的視野で物事を思考できる人間性豊かな人材の育成」に資する取組みを行っている。</p>		
関連資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>学術と地域文化1</u>」「<u>学術と地域文化2</u>」シラバス ・「<u>教養と系譜</u>」シラバス ・<u>山陽小野田市立山口東京理科大学地域連携・社会貢献レポート</u> 		

タイトル (No. 5)	地域医療の課題をテーマにしたプロジェクト学習「山口県地域医療学」
取組の概要	<p>薬学部では、地域で働く薬剤師の協力のもと、チーム医療、在宅医療・介護への参画、地域保健・医療・福祉に対する取り組みなどの教育を徹底して行う。また、地域における薬局の役割、健康啓発活動、健康サポート薬局（かかりつけ薬局）についての理解を深める教育に取り組んでいる。</p>
取組の成果	<p>将来、薬剤師として山口県地域の医療機関の多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画することが期待されている。そのために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができるように基本的事項を修得する。</p> <p>そのため「山口県地域医療学1」、「山口県地域医療学2」を開講し、地域医療と薬剤師の責務に焦点を置き、在宅医療、予防医療、救急医療や災害対策など現在取り組まれている活動に関して、長く病院に勤務する薬剤師が、その知識と実務経験に基づいた講義及び演習を行っている。</p> <p>また、学生が将来、山口県地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できることを目標とし、在宅医療・介護、地域保健（公衆衛生、学校薬剤師等）、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動を通して地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができるようにしており、学生が実際の他職種の職務を見学し、意見交換を行っている。</p> <p>また、薬学部においてこれから学んでいく動機付けのために、病院・薬局・山口県庁での「早期体験学習」を行い、勉学のモチベーションを高め、将来への夢と心構えをもてるようにしている。さらに、「ヒューマンコミュニケーション1演習」及び「ヒューマンコミュニケーション2演習」から、対話を通じて相手の心理、立場を理解し、信頼関係を構築するための能力を養っている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>山口大学附属病院での早期体験学習</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>県庁での行政薬剤師早期体験学習</p> </div> </div>
自己評価	<p>薬学部の「薬学をとおして人の健康を守るという高い志と研究心・倫理観の習得を目指し、山口県地域をはじめとして日本全国で活躍したいと願う人を求める」という入学者受入方針と、「薬剤師・薬学人として地域貢献をはじめとして広く社会に貢献する意欲を身に付ける、という学位授与の方針に基づいた取組みを行っている。</p>
関連資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「山口県地域医療学1」「山口県地域医療学2」シラバス ・「ヒューマンコミュニケーション1演習」「ヒューマンコミュニケーション2演習」シラバス ・「早期体験学習」シラバス

認証評価共通基礎データ様式【大学用】様式1(令和4年5月1日現在)

事項		記入欄						備考					
大学の名称		山陽小野田市立山口東京理科大学											
学校本部の所在地		山口県山陽小野田市立大学通1-1-1											
教育研究組織	学部・学科等の名称	開設年月日	所在地				備考						
	工学部 機械工学科 電気工学科 応用化学科 薬学部 薬学科	2009年4月1日 2009年4月1日 1995年4月1日 2018年4月1日	山口県山陽小野田市立大学通1-1-1										
	研究科・専攻等の名称	開設年月日	所在地				備考						
	工学研究科 工学専攻 修士課程 工学研究科 博士後期課程	1999年4月1日 2003年4月1日											
学生募集停止中の学部・研究科等		□□学部□□学科(年度学生募集停止, 在学生数 人)											
教員組織	学部・学科等の名称	専任教員等						非常勤 教員	専任教員一人 あたりの在籍 学生数	備考			
		教授	准教授	講師	助教	計	基準数				うち教授数	助手	
		工学部 機械工学科	5人	3人	0人	3人	11人	人	人		0人	人	人
		工学部 電気工学科	4人	1人	3人	2人	10人	人	人		0人	人	人
		工学部 応用化学科	6人	3人	2人	4人	15人	人	人		0人	人	人
		工学部 数理情報科学科	3人	3人	2人	0人	8人	人	人		0人	人	人
		薬学部 薬学科	24人	8人	11人	8人	51人	人	人		0人	人	人
	(大学全体の収容定員に応じた教員数)	7人	8人	5人	0人	20人	人	人	—	—	—		
	計	49人	26人	23人	17人	115人	0人	0人	0人	0人	0人		
	大学院課程	研究科・専攻等の名称	研究指導教員及び研究指導補助教員						助手	非常勤 教員	備考		
研究指導 教員			うち 教授数	研究指導 補助教員	計	研究指導 教員 基準数	うち 教授数	研究指導 補助教員 基準数				基準数計	
工学研究科 工学専攻(修士)		7人	3人	6人	13人	人	人	人	人	人		人	
工学研究科 工学専攻(博士後期)		12人	12人	1人	13人	人	人	人	人	人		人	
計	7人	3人	6人	13人	0人	0人	0人	0人	0人	0人			
施設・設備等	校地等	区分	基準面積	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	備考					
		校舎敷地面積	—	64,008 m ²	m ²	m ²	64,008 m ²						
		運動場用地	—	9,516 m ²			9,516						
		校地面積計	m ²	73,525	0	0	73,525						
		その他	—	30,437			30,437						
	区分	基準面積	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計							
	校舎面積計	m ²	13,821 m ²	m ²	m ²	13820.64 m ²							
	教員 研究室	学部・研究科等の名称	室数										
		工学部	35室										
		薬学部	36室										
共通教育センター	20室												
	区分	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設							
キャンパス教室等施設	24室	12室	81室	2室	室								
図書館・ 図書資料 等	図書館等の名称	面積	閲覧座席数										
	図書館本館	1099 m ²	248席										
	図書館等の名称	図書[うち外国書]	学術雑誌[うち外国書]	電子ジャーナル[うち国外]									
	図書館本館	6405 [12779] 冊	2634 [973] 種	2533 [966] 種									
計	6405 [12779]	2634 [973]	2533 [966]										
体育館	面積												
	本学キャンパス	1,555 m ²											

認証評価共通基礎データ様式【大学用】様式2(令和5年5月1日現在)

学部名	学科名	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	入学定員に対する平均比率	備考
工学部	機械工学科	志願者数	517	716	361	567	381	111%	
		合格者数	109	103	158	87	83		
		入学者数	68	63	64	67	71		
		入学定員	60	60	60	60	60		
		入学定員充足率	113%	105%	107%	112%	118%		
		在籍学生数	277	266	265	260	263		
	収容定員	240	240	240	240	240			
	収容定員充足率	115%	111%	110%	108%	110%			
	電気工学科	志願者数	398	558	403	503	372	109%	
		合格者数	84	93	178	80	78		
		入学者数	66	61	71	64	66		
		入学定員	60	60	60	60	60		
		入学定員充足率	110%	102%	118%	107%	110%		
		在籍学生数	264	247	264	260	266		
	収容定員	240	240	240	240	240			
	収容定員充足率	110%	103%	110%	108%	111%			
	応用化学科	志願者数	630	769	669	601	457	106%	
		合格者数	134	124	187	127	111		
入学者数		89	84	80	83	86			
入学定員		80	80	80	80	80			
入学定員充足率		111%	105%	100%	104%	108%			
在籍学生数		346	336	335	340	331			
収容定員	320	320	320	320	320				
収容定員充足率	108%	105%	105%	106%	103%				
数理情報科学科	志願者数					439	103%		
	合格者数					79			
	入学者数					62			
	入学定員					60			
	入学定員充足率					103%			
	在籍学生数					62			
収容定員					60				
収容定員充足率					103%				
学部合計	志願者数	1,545	2,043	1,433	1,671	1,649	108%		
	合格者数	320	320	533	294	351			
	入学者数	223	209	215	214	225			
	入学定員	200	200	200	200	200			
	入学定員充足率	112%	104%	108%	107%	110%			
	在籍学生数	867	849	864	860	922			
	収容定員	800	800	800	800	800			
	収容定員充足率	111%	106%	108%	108%	107%			

学部名	学科名	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	入学定員に対する平均比率	備考	
薬学部	薬学科	志願者数	1,103	1,143	906	1,085	1,108	107%		
		合格者数	240	205	222	197	190			
		入学者数	145	121	120	122	124			
		入学定員	120	120	120	120	120			
		入学定員充足率	121%	101%	100%	102%	103%			
		在籍学生数	261	378	488	597	714			
		収容定員	240	360	480	480	720			
		収容定員充足率	109%	105%	102%	124%	99%			
		学部合計	志願者数	1,103	1,143	906	1,085		1,108	107%
			合格者数	240	205	222	197		190	
入学者数	145		121	120	122	124				
入学定員	120		120	120	120	120				
入学定員充足率	121%		101%	100%	102%	103%				
在籍学生数	261		378	488	597	714				
収容定員	240		360	480	480	720				
収容定員充足率	109%		105%	102%	124%	99%				

研究科名	専攻名	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	入学定員に対する平均比率	備考	
工学研究科(修士課程)	工学専攻(修士課程)	志願者数	29	19	34	21	41	141%		
		合格者数	24	16	30	20	35			
		入学者数	21	15	22	17	31			
		入学定員	15	15	15	15	15			
		入学定員充足率	140%	100%	147%	113%	207%			
		在籍学生数	33	37	38	39	48			
		収容定員	30	30	30	30	30			
		収容定員充足率	110%	123%	127%	130%	160%			
		研究科合計	志願者数	29	19	34	21		41	141%
			合格者数	24	16	30	20		35	
入学者数	21		15	22	17	31				
入学定員	15		15	15	15	15				
入学定員充足率	140%		100%	147%	113%	207%				
在籍学生数	33		37	38	39	48				
収容定員	30		30	30	30	30				
収容定員充足率	110%		123%	127%	130%	160%				

研究科名	専攻名	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	入学定員に対する平均比率	備考	
工学研究科(博士後期課程)	工学専攻(博士後期課程)	志願者数	0	0	2	1	0	22%		
		合格者数	0	0	2	1	0			
		入学者数	0	0	2	1	0			
		入学定員	3	3	3	3	3			
		入学定員充足率	0%	0%	67%	33%	0%			
		在籍学生数	4	3	2	3	3			
		収容定員	9	9	9	9	9			
		収容定員充足率	44%	33%	22%	33%	33%			
		研究科合計	志願者数	0	0	2	1		0	22%
			合格者数	0	0	2	1		0	
入学者数	0		0	2	1	0				
入学定員	3		3	3	3	3				
入学定員充足率	0%		0%	67%	33%	0%				
在籍学生数	4		3	2	3	2				
収容定員	9		9	9	9	9				
収容定員充足率	44%		33%	22%	33%	22%				

<編入学>

学部名	学科名	項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
工学部	機械工学科	入学者数(2年次)	1				2	
		入学定員(2年次)						
		入学者数(3年次)						
		入学定員(3年次)						
		入学者数(4年次)						
		入学定員(4年次)						
	電気工学科	入学者数(2年次)					1	
		入学定員(2年次)						
		入学者数(3年次)		1			1	
		入学定員(3年次)						
	応用化学科	入学者数(2年次)					1	
		入学定員(2年次)						
		入学者数(3年次)					1	
		入学定員(3年次)						
学部合計	入学者数(2年次)	1	0	0	0	3		
	入学定員(2年次)	0	0	0	0	0		
	入学者数(3年次)	0	1	0	0	1		
	入学定員(3年次)	0	0	0	0	0		
	入学者数(4年次)	0	0	0	0	0		
	入学定員(4年次)	0	0	0	0	0		